

令和4年11月18日

戸塚区地域子育て支援拠点

運営委託

第1回 選定委員会

説明資料

横浜市戸塚区地域子育て支援拠点運営法人選定委員会要綱

制定 平成 20 年 5 月 21 日 戸サ第 839 号（戸塚区長決裁）
最近改正 令和 4 年 6 月 27 日 戸こ第 805 号（戸塚区長決裁）

（趣旨）

第 1 条 この要綱は、横浜市戸塚区地域子育て支援拠点の運営者の選定に関する要綱第 10 条第 2 項に基づき、「横浜市戸塚区地域子育て支援拠点運営法人選定委員会（以下「選定委員会」という。）」の組織及び運営に関し必要な事項を定めることを目的として制定する。

2 選定委員会の組織及び運営については、横浜市子育て支援事業運営事業者選定委員会運営要綱に定めるもののほか、この要綱の定めるところによる。

（担当事務）

第 2 条 選定委員会は、横浜市戸塚区地域子育て支援拠点運営法人に応募をした法人（以下「拠点応募法人」という。）について、横浜市戸塚区地域子育て支援拠点の運営者の選定に関する要綱第 8 条に規定する運営法人選定基準に基づき審議する事務を担当すること。

2 前項の審議にあたっては、拠点応募法人の提出書類を審査、評価するとともに、拠点応募法人に対して、ヒアリングを実施し、その内容を評価するものとする。

（組織）

第 3 条 選定委員会は、5 人以上 10 人以内の委員をもって組織する。

2 選定委員会の委員は、横浜市子育て支援事業運営事業者選定委員会（以下「運営事業者選定委員会」という。）の委員長が指名する運営事業者選定委員会の委員若干名のほか、子育て支援に理解のある地域関係者、有識者、その他区長が必要と認める者のうちから、市長が任命する。

3 委員の任期は、運営事業者選定委員会の委員の任期の終期を越えないものとする。ただし、委員が欠けた場合における補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

4 自己、配偶者若しくは三親等以内の親族の従事する業務に直接の利害関係がある場合は、審議から除くものとする。

5 委員は、再任することができる。

（委員長）

第 4 条 選定委員会に委員長を 1 名置く。

2 委員長は、委員の互選により選定する。

3 委員長は、委員会を代表し、会務を総理する。

4 委員長に事故があるとき、又は委員長が欠けたときは、委員のうちから委員長があらかじめ指名した者がその職務を代理する。

（会議）

第 5 条 選定委員会の会議は、委員長が招集し、委員長がその議長となる。ただし、第 4 条第 2 項の規定に基づき委員長を定めるまでの間は、区長が招集する。

2 選定委員会の会議は、委員の 5 分の 4 以上の出席がなければ開くことができない。

3 選定委員会の会議への委員の代理出席については、これを認めない。

（守秘義務）

第 6 条 委員は、選定のうへで知り得た団体や個人に関する情報を外部に漏らしてはならない。

(庶務)

第7条 選定委員会の事務局は、戸塚区福祉保健センターこども家庭支援課において処理する。

(委任)

第8条 この要綱に定めるもののほか、選定委員会の運営に関し必要な事項は、委員長が別に定める。

附 則

(施行期日)

この要綱は、平成20年5月21日から施行する。

附 則

(施行期日)

- 1 この要綱は、平成24年4月1日から施行する。
(経過措置)
- 2 この要綱の施行後最初の選定委員会の会議は、第5条第1項の規定にかかわらず、区長が招集する。

附 則

(施行期日)

- 1 この要綱は、平成27年8月7日から施行し、平成27年4月1日から適用する。
(経過措置)
- 2 この要綱の施行の際現に横浜市戸塚区地域子育て支援拠点運営法人選考委員会の委員又は委員長に選任されている者は、この要綱の施行の日において、それぞれ、横浜市戸塚区地域子育て支援拠点運営法人及び子育てひろば私立常設園選定委員会要綱の規定による選定委員会の委員又は委員長に選任されたものとみなす。
- 3 第3条第3項の規定にかかわらず、前項の規定により選任されたものとみなされる選定委員会の委員の任期は、平成29年3月31日までとする。

附 則

(施行期日)

この要綱は、平成28年8月31日から施行する。

附 則

(施行期日)

この要綱は、令和4年6月27日から施行する。

横浜市子育て支援事業運営事業者選定委員会の概要について

1 横浜市子育て支援事業運営事業者選定委員会について

「横浜市子育て支援事業運営事業者選定委員会」は、「附属機関設置条例」（平成 23 年 12 月横浜市条例第 49 号）に基づき、本市における子育て支援事業の運営事業者の選定についての審議に関することを担任する委員会です。

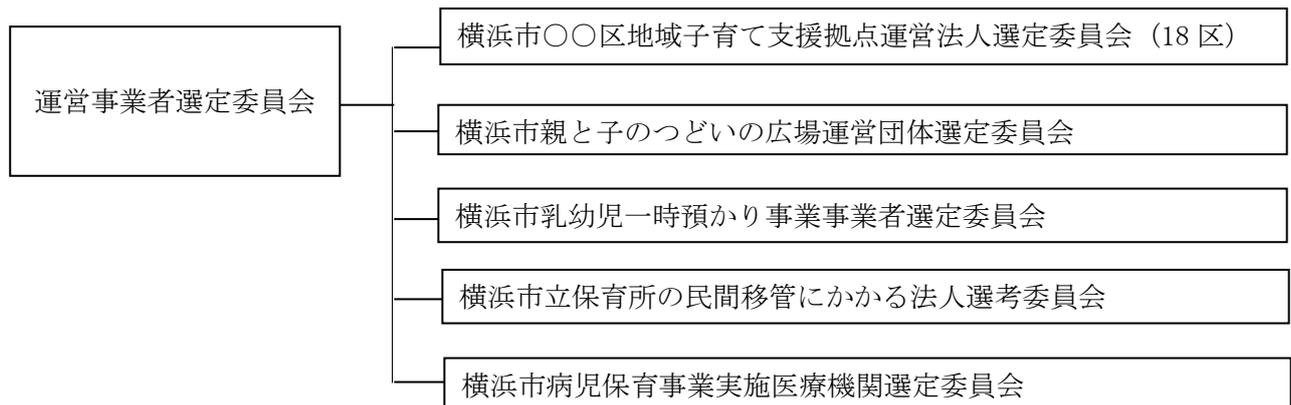
2 横浜市子育て支援事業運営事業者選定委員会（以下「運営事業者選定委員会」）の概要

（1）担当事務

- ア 横浜市各区における地域子育て支援拠点運営法人の選考についての審議に関すること。
- イ 横浜市親と子のつどいの広場運営団体の選定についての審議に関すること。
- ウ 横浜市乳幼児一時預かり事業事業者の選定についての審議に関すること。
- エ 横浜市立保育所の民間移管にかかる法人の選考についての審議に関すること。
- オ 横浜市病児保育事業実施医療機関の選定についての審議に関すること。
- カ その他市長が必要と認める横浜市の子育て支援事業にかかる運営事業者の選定についての審議に関すること。

（2）組織

【下部組織（分科会）】



<計 22 分科会>

(3) 委員

委員は、本市非常勤特別職職員として市長から任命（委嘱）されます。

ア 定数

10 人以内

イ 構成

- (ア) 学識経験者
- (イ) 子育て支援関係者
- (ウ) 保育関係者
- (エ) 幼児教育関係者
- (オ) その他市長が必要と認める者

ウ 任期

2 年（今期：令和 4 年 4 月 1 日～令和 6 年 3 月 31 日）

ただし、委員が欠けた場合における補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とします。

エ 委員長

委員の互選により委員長 1 人を選出します。

(4) 会議

ア 開催頻度

年 1 回程度（4 月頃）

イ 開催内容

分科会の報告、開催予定の確認等

ウ 会議の公開

会議については、一般に公開するものとしませんが、委員の承諾があれば、会議の一部又は全部を非公開とすることができます。

3 運営事業者選定委員会と分科会の関係

- (1) 上記 2 (2) の 23 の委員会については、運営事業者選定委員会運営要綱において、分科会として規定されています（運営事業者選定委員会と同様、附属機関に位置付けられます）。
- (2) 分科会は、運営事業者選定委員会の委員長が指名する委員若干人及び市長が任命する者により構成します（分科会の委員も、本市非常勤特別職職員として市長から任命されます）。
- (3) 分科会には、分科会の委員の互選により分科会長を 1 人置きます。
- (4) 分科会における議決をもって、運営事業者選定委員会の議決とします（ただし、各分科会の議決内容については、次年度の運営事業者選定委員会において報告します）。
その他、分科会の組織や運営に関する事項は、別に定めます（各分科会の運営要綱）。

横浜市戸塚区地域子育て支援拠点運営法人
選定委員名簿

(敬称略)

	役職	氏名
1	國學院大學人間開発学部子ども支援学科准教授	廣井 雄一
2	社会福祉法人 横浜市戸塚区社会福祉協議会 事務局長	安部 力
3	大正東地区 主任児童委員	近内 靖子
4	学校法人 矢島学園 矢島幼稚園 理事長	矢島 昭彦
5	学校法人 岩崎学園 岩崎学園東戸塚保育園 園長	柳川 まつ子
6	横浜市南戸塚地域ケアプラザ所長	福島 百合

事務局

役職	氏名
戸塚区福祉保健センター担当部長	松本 真佐人
こども家庭支援課長	小嶋 宏子
こども家庭係長	三浦 尋章
こども家庭係	山崎 有希子

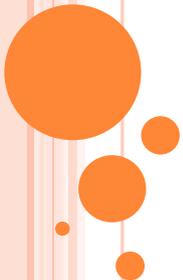
オブザーバ

役職	氏名
こども家庭支援担当係長	鋪 歆奈
こども青少年局地域子育て支援課担当係長	東 明德

資料 4

戸塚区地域子育て支援拠点の概要

令和4年11月18日
戸塚区子ども家庭支援課



地域子育て支援拠点とは

- 横浜市子ども・子育て支援事業計画
～子ども、みんなが主役！よこはま わくわくプラン～
基本施策のひとつ「地域における子育て支援の充実」

課題 少子化、核家族化
➡知識を得る機会の不足による不安を抱える家庭増
預かりの不足による保護者負担増

目標

- 親子の交流の場や機会の充実
- 地域で子育てに寄り添う環境づくり
- 預かりの場の拡充や市民同士での預かり合い促進
- ニーズに応じた施設や制度の利用支援

➡ 「地域子育て支援拠点」の整備

1



地域子育て支援拠点事業とは

地域子育て支援拠点は、親同士の出会いと交流の場であり、子どもたちが自由に遊びかかわりあう場でもある。親は親で支えあい、子どもは子どもで育ちあい、地域の人たちが親子を温かく見守ることが、子育て・子育てにおいては必要不可欠な経験となる。すなわち、地域子育て支援拠点は、親子・家庭・地域社会の交わりをつくりだす場である。

『地域子育て支援拠点事業における活動の指標「ガイドライン」
【改訂版】』より抜粋

2

地域子育て支援拠点事業の実施方法と機能

実施方法

- 区と運営法人が事業目的を共有しながら協働で実施していく
- 区と運営法人は委託契約を締結し、区は運営法人に事業に係る経費を支払う

機能

- 親子の居場所事業
- 子育て相談事業
- 子育て情報収集、提供事業
- 利用者支援事業
- 子育て支援ネットワーク事業
- 子育て支援人材育成、活動支援事業
- 横浜子育てサポートシステム区支部事務局運営事業

3

戸塚区の概要

- **面積** 35.7 km² (市内最大)
- **人口** 284,084人(市内4位。港北、青葉、鶴見に次ぐ)
年少人口(0~14歳) 12.8% (市内2位。都筑に次ぐ)
老年人口(65歳~) 26.2% (市内10位)
平均年齢 46.7歳(市内11位)
出生数 : 2,075人(市内3位。港北、鶴見に次ぐ)
→ 比較的若い層が多い

※数値はR4.1月時点
出生数のみR3年通年

- 東戸塚駅周辺、戸塚駅周辺にマンションが多いこともあり、戸塚区の0~4歳人口の約半数を両駅周辺で占める

4

戸塚区の子育て支援の主な課題

- **区の面積が大きく、区内のそれぞれの地域特性に合わせた支援が必要**
- **子育て中の区民や支援団体に、タイムリーに必要な子育て情報を届けるための工夫**
- **子育て支援に関わる者のネットワーク形成の強化**
- **子育て支援に関わる人材の育成**

5

戸塚区地域子育て支援拠点 とつとの芽

■所在地

戸塚区川上町9-1-1
モレラ東戸塚3F

■アクセス

JR東戸塚駅西口から
徒歩3分



戸塚区地域子育て支援拠点 とつとの芽 サテライト

■所在地

戸塚区上倉田町957-1
ヴィラ桜1階

■アクセス

JR・地下鉄戸塚駅東口から
徒歩10分



6

戸塚区地域子育て支援拠点の業務内容

■親子の居場所事業

場の提供を通じて、子育て当事者同士の仲間づくりを促進。
週5日以上、1日6時間以上、居場所の提供を行う。

■子育て相談事業

子どもと家庭に関する相談に対応することを通じて、支援につなげていないニーズを適切な支援につなげていく。居場所、相談室での対応や電話相談を行う。

■子育て情報収集、提供事業

区内等の子育てに関する情報を一元化し、提供する。情報コーナーの設置や多様な媒体を活用した情報提供。

7

戸塚区地域子育て支援拠点の業務内容

■利用者支援事業

個々のニーズに応じた相談対応と関係機関等との協働の関係づくりに関する相談、情報提供などを行う。

■子育て支援ネットワーク事業

ネットワーク化を進めることを通じて、地域の子育て支援活動の質の向上、活動の活性化、活動の課題解決を図る。

■子育て支援人材育成、活動支援事業

子育て支援人材の育成、当事者のサークル活動等の支援を通じて、子育て支援に関わる市民の増加、活動の活性化を図る。

■横浜子育てサポートシステム区支部事務局運営事業

事務局運営により、子どもの預かりに係る支援ニーズの充足、地域の人材育成を進め、地域ぐるみの支え合いの促進を図る。

8

戸塚区地域子育て支援拠点の これまでの主な実績と成果（上段がとっとの芽、下段がサテライト）

■親子の居場所

	R1年度	R2年度	R3年度
開催日数(日)	2 3 9	2 4 0	2 4 2
利用者数(人)	26,437 24,054	16,168 15,422	19,544 20,148
新登録者数(人)	1,003 1,285	574 646	649 812

■子育て相談

	R1年度	R2年度	R3年度
相談件数(件)	2,500 2,057	2,503 1,790	2,524 2,023



9

戸塚区地域子育て支援拠点の これまでの主な実績と成果

■情報収集・提供

- 「とつか子育て応援ガイドブックまっぴい」発行
- 「とっとあぷり」配信登録者数1,090人（令和3年度）
- とっとの芽HPに「地域こそだてカレンダー」の掲載

■利用者支援事業

- 相談件数（令和3年度年度）
来所相談396件、電話相談125件、出張相談45件
- 連絡会等へ出席し、事業説明・周知活動
出張相談36回
地域訪問：4か月児健診、赤ちゃん教室、両親教室
保育園、近隣施設等

10

戸塚区地域子育て支援拠点の これまでの主な実績と成果

■ネットワーク

- 地域ケアプラザエリアごとの「地区別子育て連絡会」を開催
- とつかおやこフェスタの開催（平成25年度～）

■人材育成

- 支援者のスキルアップのための研修会の開催
- 親子サークル等から次の世代のリーダーの育成

■横浜子育てサポートシステム区支部事務局運営事業

- 全会員数 988人（令和3年度）

11

まとめ

広い戸塚区は、各地域の特性も様々です。これまで、拠点から離れた地域の区民や支援者に対しても拠点の役割を効果的に果たしていくことに重点を置いていました。

今後は更に、各地域の特性を生かして、地域の子育て支援団体のネットワークを強化し、各地域としっかりつながり、親子・家庭・地域の子育て力を底上げしていくことが大切であると考えます。



運営法人の選定方法

資料 5

1 選定のスケジュール

時 期	内 容
11月8日(火) 〆切	応募法人が区に「提出書類」を提出
11月21日以降	区から委員あてに「提出書類」一式を郵送 <u>「提出書類」をもとに「評価指標」で事前に粗評価を行う</u>
12月6日(火)	「第2回選定委員会」 …応募法人によるプレゼン及び質疑応答 <u>必要に応じて評価を修正し、確定</u> 事務局による集計、次期運営法人の選定
12月中旬	「戸塚区業者選定委員会」(※) …選定委員会の選定結果を審査、決定
12月26日(月)	選定結果通知→ホームページに公表

提出書類一覧
(資料6-1)

評価指標(資料6-2)

※ 選定結果について

法人の選定は、戸塚区の業者選定委員会が決定します。第2回選定委員会の結果を、業者選定委員会委員長である区長に報告し、審議を経て、受託法人が決定します。

2 評価方法

(1) 選定基準

資料7「横浜市戸塚区地域子育て支援拠点の運営者の選定に関する要綱」第8条に規定する運営法人選定基準を総合的に判断して選定を行います。

- 養育者のニーズを把握し、育児不安の解消や、育児力の向上を効果的に図ることができる法人である。
- 地域の子育て支援者と連携し、活動を活性化させるとともに、地域ニーズを踏まえた支援者の育成を行うことで、子育てを地域全体で支援する地域力の創出が図れる法人である。
- 拠点事業の趣旨を十分理解し、適切な提案を行っているとともに、継続して安定した運営が見込まれる法人である。
- 戸塚区福祉保健センター等の関係機関との連携、協力が図れる法人である。

(2) 「評価指標」(資料6-2)による評価点数のつけ方

①の「判断材料」に記載されている、応募法人からの提出書類をもとに、提案内容进行评估します。②の「基準」に応じて、③の基礎点(5・4・3・2・1)をつけていきます。④の重要度に応じて、評価(10・8・6・4・2)の値が最終的な各項目の評価点数となります。

(例)

項目		基準	基礎点	重要度	評価	最高点	判断材料
1 基本的事項	(1)子育て支援に対する理念、取り組み状況	子育て支援への理念や取り組みが優れているか				(30)	提出書類様式Ⅱ
		法人の子育て支援の理念や考え方	5・ <u>4</u> ・3・2・1	×2	8	10	
		本市の子育て家庭のニーズや課題に関する考え方	5・4・3・ <u>2</u> ・1		4	10	
		子育て支援関連事業の経験・実績	5・4・ <u>3</u> ・2・1		6	10	

(3) 「評価指標」の内容

※「評価指標」(資料6-2)参照

3 評価の判断材料となる主な様式

(1) 「提出書類一覧」(資料6-1)

応募法人が提出する書類であり、法人の概要や法人の子育て支援活動実績等の他、「7事業評価シート」を踏まえて次期5年間で行う事業提案内容が記載されています。

(2) 7事業評価シート(資料6-3)

※事業評価(5か年の振り返り)について

今年度上半期に、区役所と現運営法人で5年間(平成30~令和4年度)の拠点事業の総括を行いました。

- ① 拠点の7事業に対して、区及び法人それぞれの自己振り返り(3月~5月)
- ② 区及び法人で意見交換をする相互振り返り(6月~8月)

事業評価を通してまとめた、今期5年間の成果と次期5年間に取り組むべき課題等が記載されています。

4 留意点

(1) 欠席の委員の点数の取り扱い

第2回選定委員会を欠席した委員の評点は、加算しません。

(2) 評価が同点の場合の措置

評点が同点の法人があった場合は、委員の投票で多数決により当該同点者の順位を決定します。票数が同数の場合には委員長の判断により決定します。

(3) 最低評価基準の設定

評価指標により評価を行った選定委員の合計点が、180点に満たない点数であった法人は非選定とします。

(4) 審議について

応募法人の提案内容（提案書及び質疑応答）から、各委員は独立して優劣を判定し、各法人の優劣については、審議しないように御留意ください。

横浜市契約事務受任者

所在地
法人名称
代表者職氏名

提 案 書

下記の書類を添えて、募集要項及びその他資料を熟知のうえ、次の件について、提案書を提出します。

件名：戸塚区地域子育て支援拠点運営法人選定

- (1) 法人の連絡先（様式Ⅰ-1）（1部）
- (2) 法人の概要・財務状況等
 - ①法人の概要（16部）
 - ②定款等（1部）
 - ③最近3年間の決算書類（1部）
 - ④最近3年間の補助金、公的機関からの融資、寄付金等の状況（1部）
 - ⑤男女共同参画及び女性活躍の推進に係る届出等（16部）※評価申請する場合のみ
- (3) 提案書の開示に係る意向申出書（様式Ⅰ-2）（1部）
- (4) 法人の子育て支援関連事業についての考え方、活動実績報告等（様式Ⅱ）
（16部）
- (5) 事業運営に関する計画（各16部）

①戸塚区地域子育て支援拠点運営の理念	（様式Ⅲ-1）
②経営方針	（様式Ⅲ-2）
③スタッフの確保・育成の考え方	（様式Ⅲ-3）
④職員配置の考え方	（様式Ⅲ-4）
⑤親子の居場所について	（様式Ⅲ-5①）
⑥子育て相談について	（様式Ⅲ-5②）
⑦子育てに関する情報の収集及び提供について	（様式Ⅲ-5③）
⑧地域との連携・交流について	（様式Ⅲ-5④）
⑨子育てに関する支援活動を行う者の育成、支援について	（様式Ⅲ-5⑤）
⑩横浜子育てサポートシステム区支部事務局事業について	（様式Ⅲ-5⑥）
⑪利用者支援事業について	（様式Ⅲ-5⑦）
⑫事業費の見込み	（様式Ⅲ-6）
⑬事業内容の質の確保・向上に関する考え方	（様式Ⅲ-7）

法人の連絡先

法人名		
連絡先	担当者	ふりがな
	役職名	
	住所	〒
	電話	TEL FAX
	E-mail	
連絡先	担当者	ふりがな
	役職名	
	住所	〒
	電話	TEL FAX
	E-mail	

* 連絡先の担当者名は、実務担当者を含め複数名記入願います。

年 月 日

横浜市契約事務受任者

所在地

法人名称

代表者職氏名

提案書の開示に係る意向申出書

プロポーザル方式の実施に係る提案書の内容に対して、開示請求があった場合の取扱いについて次のとおり意向を申し出ます。

件名：戸塚区地域子育て支援拠点運営法人選定

上記の件について、

1. 提案書の開示を承諾します。
2. 提案書の非開示を希望します。

理由：

※本申出書は提案書の内容を非開示とすることを確約するものではありません。「横浜市の保有する情報の公開に関する条例」等関連規定に基づき、公開が妥当と判断される部分については開示する場合があります。

連絡担当者

所属

氏名

電話番号

ファクシミリ番号

E-mail

経 営 方 針

経営効率や費用対効果を高める取組についての考え方や計画を具体的に記載してください。

スタッフの確保・育成の考え方

1 拠点の運営理念や事業計画を踏まえたスタッフ採用・配置の考え方や計画を具体的に記載してください。

2 スタッフの育成・研修体制の考え方や計画を具体的に記載してください。

職員配置の考え方

1 主たる施設の職員について

No.	従事する業務	勤続年数又は新規の別	性別	年齢	資格	関連職務経験	常勤・非常勤の別
1							
2							
3							
4							
5							
6							
7							
8							
9							
10							

※上記職員の配置が分かるよう、職員No.ごとの勤務形態を記入してください。
(勤務時間について午前・午後、終日など分かるように記載してください。)

職員No.	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
日曜日										
月曜日										
火曜日										
水曜日										
木曜日										
金曜日										
土曜日										

2 サテライト施設の職員について

No.	従事する業務	勤続年数又は新規の別	性別	年齢	資格	関連職務経験	常勤・非常勤の別
1							
2							
3							
4							
5							

※上記職員の配置が分かるよう、職員No.ごとの勤務形態を記入してください。
(勤務時間について午前・午後、終日など分かるように記載してください。)

職員No.	1	2	3	4	5
日曜日					
月曜日					
火曜日					
水曜日					
木曜日					
金曜日					
土曜日					

3 スタッフ間の連携の図り方について記入してください。

親子の居場所について

【予定している開設日及び時間】

開設曜日（○をつける） 日 月 火 水 木 金 土

開設時間 _____時から_____時まで

開設曜日、時間の設定の考え方

- 1 利用者を温かく迎え入れる場づくりについて具体的に記載してください。

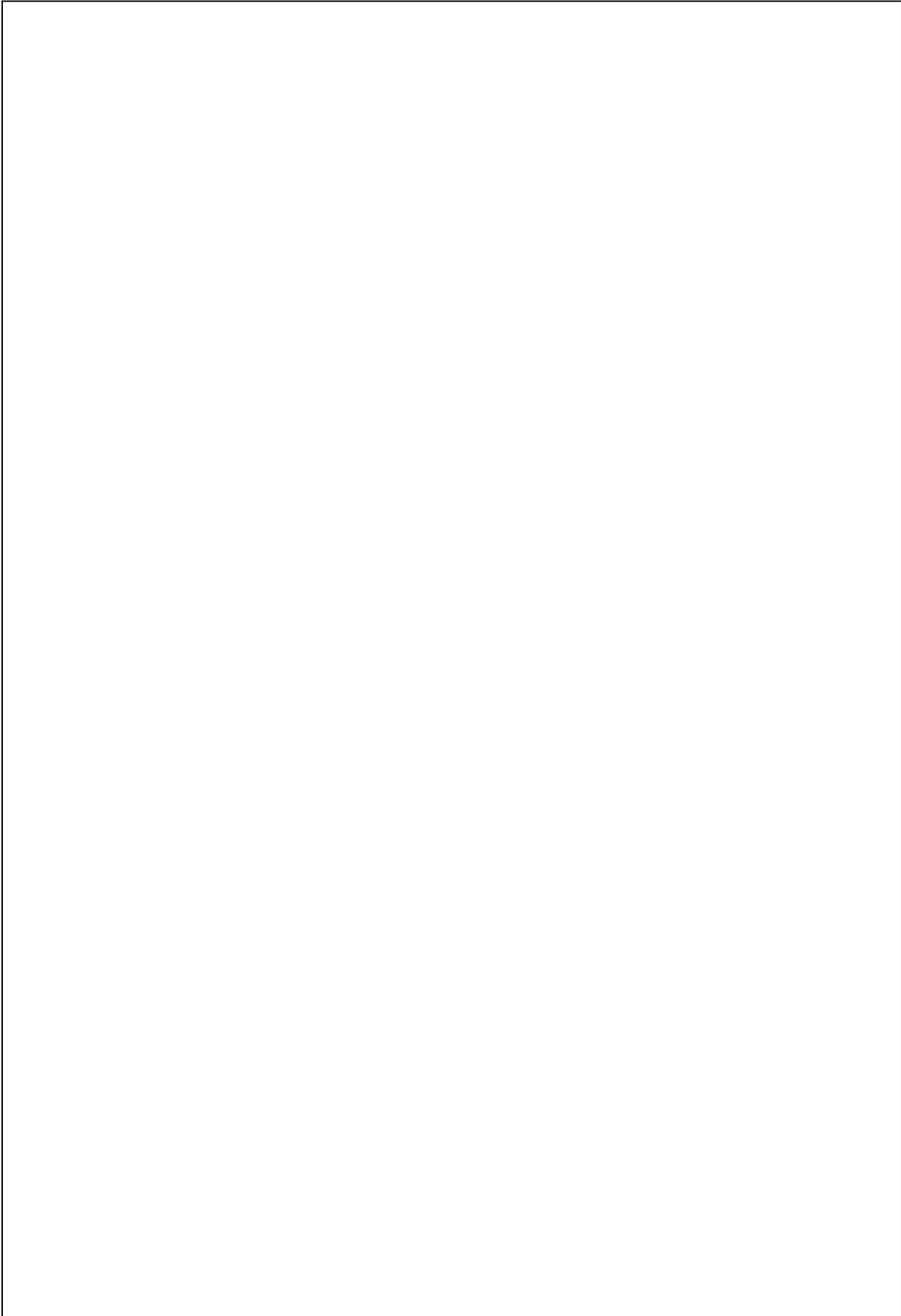
- 2 多様な世代、性別等の養育者と子どもが訪れる場づくりについて具体的に記載してください。

- 3 養育者と子どものニーズを把握するための工夫について具体的に記載してください。

- 4 親（養育者）自身が親として育ち、また子どもが育つ場としての環境づくり等について具体的に記載してください。

- 5 子どもにとって安全な環境（衛生管理・事故防止）の確保について具体的に記載してください。

- 6 居場所について「戸塚区地域子育て支援拠点事業評価シート」を踏まえて、重点をおいて実施する計画を具体的に記載してください。



【様式Ⅲ-5⑤】
子育てに関する支援活動を行う者の育成、支援について

- 1 地域の子育て支援活動を活性化するための方法、工夫を具体的に記載してください。
- 2 新たな子育て支援人材を発掘・育成するための方法、工夫について具体的に記載してください。
- 3 地域で子育て支援に関わっている人のスキル向上のための支援についての考え方、方法を具体的に記載してください。
- 4 子育て家庭を温かく見守る地域全体での雰囲気作りの取組について具体的に記載してください。
- 5 妊娠期の方やそのパートナー、学生に対しての、子育てについて考え、学び合う機会づくりについて具体的に記載してください。
- 6 人材育成について「戸塚区地域子育て支援拠点事業評価シート」を踏まえて、重点をおいて実施する計画を具体的に記載してください。

横浜子育てサポートシステム区支部事務局事業について

- 1 子育てサポートシステムに、多くの地域の人や養育者の参画を得るための広報・周知活動の方法、工夫について具体的に記載してください。

- 2 会員が安心・安全な活動を行えるように、コーディネーターが果たすべき役割について具体的に記載してください。

- 3 養育者の利用相談内容に応じて、子育て相談及び他機関等の情報を提供し、必要な支援につなげるための考え方、方法について具体的に記載してください。

- 4 会員の活動継続を支えるための研修会や交流会等の方法、工夫について具体的に記載してください。

- 5 横浜子育てサポートシステム区支部事務局事業について「戸塚区地域子育て支援拠点事業評価シート」を踏まえて、重点をおいて実施する計画を具体的に記載してください。

利用者支援事業について

- 1 利用者支援事業を区民に広く周知する方法や養育者が気軽に利用しやすくするための工夫をどのようにしていくか具体的に記載してください。

- 2 相談対応や選択肢の提示、選択の支援にあたって専任職員が重視すべき基本姿勢について、どのように考えているか具体的に記載してください。

- 3 相談対応及び関係機関や地域の社会資源との協働の関係づくりについて、拠点の他の機能をどのように活かして取り組んでいくか具体的に記載してください。

- 4 利用者支援事業の専任職員について、どのような資質が求められると考えているか具体的に記載してください。

- 5 利用者支援事業について、「戸塚区地域子育て支援拠点事業評価シート」を踏まえて、重点をおいて実施する計画を具体的に記載してください。

事業費の見込み

現時点で想定している事業費の内訳を記載してください。

注) 記載した事業費が、実際に支払う事業費になるわけではありません。委託契約の際には、別途見積書を提出していただき、金額を決定します。

【主たる施設】

項目	細目	金額	説明（計算、内訳、用途等）
人件費	常勤職員（施設長）		
	常勤職員		
	非常勤職員		
		小 計	
施設費	光熱水費		
	非常通報システム使用料		
	小 計		
事業費	【親子の居場所にかかる経費】		
	【子育て相談にかかる経費】		
	【子育て情報収集・提供にかかる経費】		
	【地域との連携にかかる経費】		
	【人材育成にかかる経費】		
	【横浜子育てサポートシステム区支部事務局事業にかかる経費】		
	【利用者支援事業にかかる経費】		
【その他】			
	小 計		
合計			

※表は、内訳、用途が分かるように記載し、必要な場合は項目を修正、追加してください。

※事業費部分の記載方法は自由です。

【サテライト施設】

項目	細目	金額	説明（計算、内訳、使途等）
人件費	常勤職員（現場責任者）		
	常勤職員		
	常勤職員		
	非常勤職員		
	非常勤職員		
	小 計		
施設費	光熱水費		
	非常通報システム使用料		
	小 計		
事業費	【親子の居場所にかかる経費】		
	【子育て相談にかかる経費】		
	【子育て情報収集・提供にかかる経費】		
	【利用者支援事業にかかる経費】		
	【その他】		
	小 計		
合計			

※表は、内訳、使途が分かるように記載し、必要な場合は項目を修正、追加してください。

※事業費部分の記載方法は自由です。

横浜市戸塚区地域子育て支援拠点 運営法人選定委員会 評価指標

資料6-2

●評価基準 5:特に優れている 4:優れている 3:標準的な水準にある 2:やや劣っている 1:劣っている

●評価点数 = 評価 × 重要度

項目	基準	基礎点	重要度	評価	最高点	判断材料
1 基本的事項	(1)子育て支援に対する理念、取り組み状況	子育て支援への理念や取り組みが優れているか			(30)	提出書類 様式Ⅱ
		法人の子育て支援の理念や考え方	5・4・3・2・1	×2	10	
		本市の子育て家庭のニーズや課題に関する考え方	5・4・3・2・1		10	
		子育て支援関連事業の経験・実績	5・4・3・2・1		10	
	(2)地域子育て支援拠点運営理念	地域特性を踏まえた地域子育て支援拠点の運営理念が優れているか				(30)
		地域子育て支援拠点の運営理念	5・4・3・2・1	×2	10	
		児童福祉法に基づいた社会福祉事業であることを踏まえた、拠点事業運営の考え方	5・4・3・2・1		10	
	区の地域特性、子育て環境、ニーズを踏まえた、拠点事業運営の考え方	5・4・3・2・1	10			
	(3)経営方針等	経営方針及び職員採用、育成に対する考え方が優れているか			(30)	様式Ⅲ-2 Ⅲ-3 Ⅲ-4
		経営効率、費用対効果を高める取組についての考え方や計画	5・4・3・2・1	×2	10	
拠点の運営理念や事業計画を踏まえた、職員採用・配置の計画		5・4・3・2・1	10			
職員の育成、研修体制についての考え方や計画	5・4・3・2・1	10				
2 事業計画	(1)親子の居場所について	居場所の場づくり、子育て支援ニーズの把握、また、交流促進等に対する考え方が優れているか			(25)	様式Ⅲ-5① Ⅲ-6
		利用者を温かく迎え入れる場づくり	5・4・3・2・1	×1	5	
		多様な世代、性別等の養育者と子どもが訪れる場づくり	5・4・3・2・1		5	
		養育者と子どものニーズ把握のための工夫	5・4・3・2・1		5	
		親自身が親として育ち、また子どもが育つ場としての環境づくり等	5・4・3・2・1		5	
	「事業評価シート」を踏まえて、重点をおいて実施する計画が優れている。	5	5			
	(2)子育て相談について	子育て相談に関する考え方が優れているか			(25)	様式Ⅲ-5② Ⅲ-6
		気軽に育児に関する相談ができるよう実施方法	5・4・3・2・1	×1	5	
		養育者の相談内容に応じた、関係機関との連携、継続した支援についての考え方	5・4・3・2・1		5	
		相談におけるプライバシーへの配慮についての考え方	5・4・3・2・1		5	
子育て相談における職員の役割や相談対応にあたっての基本姿勢についての考え方		5・4・3・2・1	5			
「事業評価シート」を踏まえて、重点をおいて実施する計画が優れている。	5	5				
(3)子育てに関する情報の収集及び提供について	子育てに関する情報の収集及び提供についての考え方が優れているか			(20)	様式Ⅲ-5③ Ⅲ-6	
	区内の子育てや子育て支援に関する情報を集約・提供するための方法	5・4・3・2・1	×1	5		
	子育てや子育て支援に関する情報の集約・提供の拠点であることを、区民に認知してもらうための方法	5・4・3・2・1		5		
	拠点の情報収集、発信の仕組みに、養育者や担い手が積極的に関わるための方法	5・4・3・2・1		5		
「事業評価シート」を踏まえて、重点をおいて実施する計画が優れている。	5	5				
(4)地域団体等との連携・交流について	子育てに関する支援活動を行う人・組織等との連携・交流に関する考え方が具体的であり、優れているか			(20)	様式Ⅲ-5④ Ⅲ-6	
	子育てに関する支援活動を行う人・組織等との連携	5・4・3・2・1	×1	5		
	ネットワークを活かして、地域の情報を収集するための方法	5・4・3・2・1		5		
	ネットワークを活かして、利用者を地域へつないでいくための方法	5・4・3・2・1		5		
「事業評価シート」を踏まえて、重点をおいて実施する計画が優れている。	5	5				

項目	基準	基礎点	重要度	評価	最高点	判断材料
2 事業計画	(5)子育て支援人材の育成、支援について	子育て支援人材の育成等に関する考え方が優れているか			(30)	様式Ⅲ-5⑤Ⅲ-6
		地域の子育て支援活動を活性化するための方法、工夫	5・4・3・2・1	×1	5	
		あらたな子育て支援人材の発掘・育成等に関する考え方、方法	5・4・3・2・1		5	
		地域で子育て支援に関わる人のスキル向上のための支援に関する考え方、方法	5・4・3・2・1		5	
		子育て家庭を温かく見守る地域全体での雰囲気作りの取組	5・4・3・2・1		5	
		妊娠期の方やそのパートナー、学生に対しての、子育てについて考え学び合う機会づくりについての考え方、方法	5・4・3・2・1		5	
	「事業評価シート」を踏まえて、重点をおいて実施する計画が優れている。	5			5	
	(6)地域の中での預け預かりあいの促進について	地域の中での預け預かりあい等に関する考え方が優れているか			(25)	様式Ⅲ-5⑥Ⅲ-6
		子育てサポートシステムに、多くの地域の人や養育者が参画を得る方法、工夫	5・4・3・2・1	×1	5	
		会員が安心・安全な活動を行えるように、コーディネーターが果たすべき役割についての考え方	5・4・3・2・1		5	
		相談内容に応じて、子育て相談及び他機関等の情報を提供し、必要な支援につなげるための考え方、方法	5・4・3・2・1		5	
		会員の活動継続を支えるための研修会や交流会等の方法、工夫	5・4・3・2・1		5	
		「事業評価シート」を踏まえて、重点をおいて実施する計画が優れている。	5		5	
	(7)利用者支援事業について	子育て家庭のニーズに応じた施設・事業等の利用の支援に関する考え方が適切であり、優れているか				(25)
		利用者支援事業を区民や関係機関に広く周知する方法や気軽に利用できるための工夫	5・4・3・2・1	×1	5	
		個別相談対応における姿勢・養育者等への適切な支援についての考え方、対応方法	5・4・3・2・1		5	
関係機関及び地域の社会資源との協働の関係づくりについて、拠点の他の機能を活用した取組		5・4・3・2・1	5			
利用者支援の専任職員に求められる資質についての考え方		5・4・3・2・1	5			
「事業評価シート」を踏まえて、重点をおいて実施する計画が優れている。		5	5			
3 管理運営	(1)事業内容の質の確保・向上に関する考え方について	区役所との協働、利用者意見の把握、個人情報保護管理、リスクマネジメントの考え方が優れているか				(40)
		区役所との協働、連携に対する考え方	5・4・3・2・1	×2	10	
		利用者意見、要望の把握、対応方法	5・4・3・2・1		10	
		個人情報保護等情報管理についての計画	5・4・3・2・1		10	
	事故防止等のリスクマネジメントについての計画	5・4・3・2・1			10	
4 財務状況等【事務局評価】	(1)財務状況(安定的な事業実施が可能な財務状況であるか)	財務分析結果が36点以上である	8	×2	16	財務分析結果
		財務分析結果が28点以上36点未満である	5			
		財務分析結果が20点以上28点未満である	3			
		財務分析結果が20点未満である	0			
	(2)ワークライフバランスに関する取組	①従業員101人未満であり、次世代育成支援対策推進法に基づく一般事業主行動計画が策定されている(※計画期間内であること)	いずれかに該当する場合は1点加点	8	提出書類	
		②従業員101人未満であり、女性の職業生活における活躍の推進に関する法律に基づく一般事業主行動計画が策定されている(※計画期間内であること)	いずれかに該当する場合は1点加点			
		③次世代育成支援対策推進法による認定(くるみん、プラチナくるみん)がされている	いずれかに該当する場合は2点加点			
		④女性の職業生活における活躍の推進に関する法律に基づく認定(えるぼし)がされている				
		⑤青少年の雇用の促進等に関する法律に基づくユースエール認定がされている	いずれかに該当する場合は2点加点			
		⑥よこはまグッドバランス賞の認定がされている(※認定期間(1/1~12/31)内であること)				
(3)障害者雇用に関する取組	⑦従業員43.5人以上であり、障害者雇用促進法に基づく法定雇用率2.3%を達成している。	いずれかに該当する場合は2点加点	1			
	⑧従業員43.5人未満であり、障害者(1週間の所定雇用時間が20時間以上で、1年以上継続して雇用される者(見込みを含む))を1人以上雇用している。					
(4)健康経営に関する取組	⑨健康経営銘柄、健康経営優良法人(大規模法人・中小規模法人)の取得、又は、横浜健康経営認証のAAAクラス若しくはAAクラスの認証を受けている。	いずれかに該当する場合は1点加点				
合計					325	
事務局評価を除く合計					300	

戸塚区地域子育て支援拠点事業 5か年のまとめ 実施概要

対象事業	戸塚区地域子育て支援拠点事業
対象期間	平成30年度～令和4年度
事業の実施者	特定非営利活動法人 子育てネットワークゆめ
	戸塚区こども家庭支援課
実施目的	<p>1 今期5か年の事業を振り返り、成果や課題、今後の方向性などを整理します。</p> <p>2 市民協働事業の実践を通じて経験を蓄積し、その後の市民協働や市民協働事業に活かしていくため、また、当該協働事業の当事者だけでなく、多くの市民等の協働への参加意欲を高めるため、当該評価を公開し、透明性を高めます。</p>
実施時期	令和4年5月
実施について	<p>拠点事業は、区と運営法人との協働により進めています。</p> <p>毎年度、事業ごとに定めている「目指す拠点の姿」に沿って役割分担し、行動計画を立て、年度末には「振り返りの視点」に沿って取組の振り返りを行いながら事業を進めてきました。また、中間期には「有識者を交えた事業評価」を実施し、事業の運営・管理にフィードバックして拠点運営状況の向上を図っています。</p> <p>今回は、中間期に行った「有識者を交えた事業評価」にその後の事業振り返りを加え、今期5か年のまとめとしました。</p> <p>【参考】 拠点の7事業</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 乳幼児の遊びと育ちの場及びその養育者の交流の場の提供（親子の居場所事業） 2 子育てに関する相談及び関係機関との連携に関すること（子育て相談事業） 3 子育てに関する情報の収集及び提供に関すること（情報収集・提供事業） 4 子育てに関する支援活動を行う者同士の連携に関すること（ネットワーク事業） 5 子育てに関する支援活動を行う者の育成、支援に関すること（人材育成、活動支援事業） 6 地域の住民同士で子どもを預け、預かる支え合いの促進に関すること（横浜子育てサポートシステム区支部事務局運営事業） 7 子育て家庭のニーズに応じた施設・事業等の利用の支援に関すること（利用者支援事業）

1 親子の居場所事業

目指す拠点の姿	(参考)2期目振り返りの課題	自己評価 (A~D)	
		法人	区
①利用者を温かく迎え入れる雰囲気のある場になっている。	・利用者の多様なニーズに合せた対応を心がけているが、様々な意見をいただいている。そのご意見を提言ととらえてより良い対応の検討を相互に継続していく。 ・利用しやすい工夫や、ひろばで開催されているプログラムの詳細を区がしっかり捉え、更に広く区民に周知していき区全域と拠点をつなげていく。特に拠点で好評だったプログラムなど拠点のスキルを広域に展開できる具体策と一緒に検討していく。	A	A
②多様な世代、性別等の養育者と子どもが訪れる場になっている。		B	A
③養育者と子どものニーズ把握の場になっている。		B	B
④親(養育者)自身が親として育ち、また子どもが育つ場となっている。		A	B

評価の理由(法人)

(主なデータ)

利用人数・新規登録数		利用者										新規登録数
年度	開所日数	子ども	母	父	祖父	祖母	プレパパ	プレママ	支援者その他	合計		
H29年度	240	15,363	12,735	974	51	291	1	60	2,163	31,696	1,599	
H30年度	241	17,279	14,045	958	31	263	24	72	2,368	35,306	1,763	
R1年度	239	東戸塚	12,793	10,558	857	33	212	52	88	1,708	26,301	1,073
		サテライト	12,216	9,988	839	28	138	25	32	707	23,973	1,315
R2年度	240	東戸塚	7,684	6,810	504	5	47	56	67	879	16,052	574
		サテライト	7,846	6,414	510	8	17	29	40	490	15,354	646
R3年度	242	東戸塚	9,028	7,680	761	6	54	65	78	1,277	18,949	649
		サテライト	9,828	8,262	748	6	42	53	84	901	19,924	812

仲間づくり・親育てのプログラム (R3年度実績)

- ・おしゃべりタイム ※注1…年20回 延べ120組 「戸塚はじめてさんの会」「パパ」「ふたごみつごの会」「ふたごみつごタイム」「ちょきっとママの会」※注2「ダウン症児の親の会」など
 - ・パパ向けプログラム…年6回 参加人数：36組、「パパうるかむの日」「パパ友DAY」など
 - ・0歳児プログラム…「4回連続講座ハッピーママ」年6回 39組、「赤ちゃんタイム」年69回 延べ1013名
 - ・土曜両親教室…年15回 113組
 - ・オンラインプログラム…「産前産後カフェ」年7回 20組、「赤ちゃんとおそぼ」年13回 54組
 - ・オンライン子育て講座…「トイレトレーニング」年2回 41組、「イヤイヤ期」6組、「子どもの遊びとおもちゃ」15組、
- ※注1 テーマを決めて、利用者同士が交流をする会
 ※注2 ちょきっとママの会 発達が気になる子を持つママの会

R1利用者アンケート 【拠点利用後の子育ての変化について】N=304 複数回答

- 1 スタッフの対応(遊び方・声のかけ方など)が子育ての参考になった 53.6%
- 2 他の親子の対応(遊び方・声のかけ方など)が子育ての参考になった 50.3%

とっこの等利用者アンケート Q 施設について	施設について		気になる事がある	未回答
	良い	普通		
ひろばの安全面・衛生面	88.2%	10.5%	1.0%	0.3%
子育ての相談のしやすさ	65.5%	32.9%	0.7%	1.0%
スタッフへの感謝のしやすさ	87.2%	12.8%	0.0%	0.0%
ひろばの居心地	81.9%	16.8%	1.0%	0.3%

①笑顔で利用者を温かく迎え入れる雰囲気づくりを心掛けている

- 1.来館者すべての人に笑顔で挨拶し一人ひとりに声掛けをして迎え入れるように心掛けている。安心して過ごせる場づくりとして日々の清掃やおもちゃの消毒、また地震・火災・防犯の訓練を行ったことで、ひろばの居心地や安全・衛生面についての満足度は高い評価を受けた(利用者アンケートより)
- 2.1人で来館しにくい、同年齢の子どもを持つママと交流したい、転居してきて仲間を作りたいなどの声から、仲間づくりのプログラムを企画し開催したところ、友達作りのきっかけとなり友達同士で拠点を利用したり、地域の居場所に行った際に顔見知りの母子がいて安心したという声が聞かれた。一方でイベントの時だけの利用者も多く日常の利用につなげることも課題の1つと捉えている。
3. 赤ちゃんタイムを定期的に開催したことで、低月齢の赤ちゃんの来館のきっかけや仲間作りが活発に行われた。

②多様な養育者の利用につながる取組や工夫を行った

1. 妊娠期からの利用を促すイベントとして、区と協力して沐浴体験や先輩ママパパとの交流を主とする「土曜両親教室」を平成31年5月から開催した。妊娠期から拠点を知ってもらおうと産後の利用につなげ、その後「土曜両親教室」の交流タイムに先輩として参加し育ちあいの場になってる。より多くの方に参加してもらう為、拠点以外の会場(地域ケアプラザなど)で開催したが、地域の方の参加につながらなかったのが課題となった。
2. 父親同士もつながりたいという要望に応え、父親向けのおしゃべりタイムを定期的に開催し父親同士の交流を促した。また父親のひとりが講師となり、パパ講座にて活躍している。
3. 障害のある児、発達特性のある児に向けた取組として、「ちょきっとママの会※注2」「発達懇談会※注3」「ダウン症児の会」を定期的に行なったが、参加する利用者が年々減少していることが課題であったが、少人数でも継続して開催することで居場所の提供ができた。また、「ひとり親支援」として、フードパントリーを訪問したり、出張ひろばを開催しニーズの把握に努めた。ニーズにあった支援ができるように、区や専門家に相談しながら取り組みたい。

※注3 発達懇談会 発達に気になる1歳半から3歳児を持つ親の座談会 戸塚地域療育センターの職員がファシリテーターとして参加している

③養育者からのニーズが高い要望を事業に活かす取組ができた

1. 幼稚園・保育園情報が欲しいという利用者からの要望に応え、幼稚園児・保育園児を持つ親へアンケート協力や口コミ情報から、得られた貴重なデータをひろばに閲覧した。保育・教育コンシェルジュとも情報共有している。プレ幼稚園情報についてもわかる範囲で情報収集しひろば掲示を行った。オンラインでニーズの高い保活講座※注4を開催したことで、拠点利用者だけでなく訪れることが難しい養育者からの参加につながった。
2. 一時保育についての相談が多く、区の保育コンシェルジュ等と連携し情報収集に努めている。
3. 利用者との日常会話から集めた声を、スタッフ間で共有し事業に反映できている。

④養育者、子ども同士の学びになる場づくりを心掛けている

1. 廃材を使ったリサイクルおもちゃ製作をひろば内で行うことで、興味がある人同士につながりが生まれ、お互い子育ての悩みを話すなど交流の場となった。また利用者の低月齢化で、0歳児でも楽しめるふれあい遊びを多く取り入れ、利用者に伝えることができた。
2. 利用者から年齢にあったおすすめの本についての相談が多く、読み聞かせボランティアと共に、本を年齢別・種別にテーブルで分類し並び替えた。利用者の本を借りる時の目安となっている。
3. 子ども同士のおもちゃの取り合いやぐずりへの対応など、スタッフの関わりが養育者のヒントとなるように心掛けたことで、利用者アンケートで高い評価を得た。また他の親子の対応が子育ての参考になったという回答も多く、ひろばが学びの場になっている。
4. 産後1か月～4か月の初めて子育てをする親向けのプログラム（ハッピーママ）を講師と共にととの芽で開発し定期的に開催。内容は子育ての悩みや楽しみを同月齢の親同士で話し合い共感できるよう構成し、4回連続で行うことでプログラム終了後もつながりを持てるようにした。参加者からも、低月齢での初めてのお出かけのきっかけとなり安心して出かけられると好評を得ている。今後は拠点だけでなく地域展開できるよう区と共に検討していきたい。
5. オンラインおしゃべりタイム「赤ちゃんとおそば」「産前産後カフェ」を定期的に開催した。外出が難しい方や里帰り中の方にも居場所を提供することができ、来館にもつながった。

※注4：保活講座 保育園探しをしている家庭向けの情報提供講座 保育園探し活動の意味

評価の理由(区)

- ①拠点スタッフミーティングに保健師が交代で出席、また、サテライトにおいても、周辺地区担当保健師と来所者共有ミーティングを行い、スタッフに対し利用者の相談時の対応の振り返りや関わり方の助言を行っている。
- ②母子健康手帳交付時や、両親教室にて拠点の周知を行う他、妊娠期から拠点につながるよう、R1年度より土曜両親教室が拠点・サテライトで始まり、今後は内容の検討、地区展開に向けた事業内容を検討していく。ちょきとママ、ダウン症児親の会、多胎児向けの事業の周知や助言を行っている。
- ③公園遊び、子育て連絡会、まっぴい※注5作成時など各種事業を行う前後の打ち合わせや定例会などで、区保健師が日々の業務で把握している母子や地域の状況を随時共有し、事業運営に反映した。
- ④居場所運営状況について、引き続き定例会や、ひろばスタッフのミーティングに参加し、利用状況等タイムリーに共有できるように、区と拠点スタッフの連携を強化していく。

※注5 まっぴい：戸塚区が発行している子育て情報冊子

拠点事業としての成果と課題

〔成果〕

- ・子ども同士、利用者同士の関わりを大切に考え日々対応した。安全面、スタッフへの話しかけやすさ、ひろばの居心地の良さは利用者アンケートで高い評価を得た。
- ・R1年度よりサテライトが開所し、今まで拠点に訪ねられなかったエリアを含め、より多くの親子に利用してもらえるようになった。
- ・0歳児プログラムは、産後すぐのお出かけのきっかけとなりコロナ禍でも多くの0歳児親子が集い、産後の不安解消や仲間づくりの場となった。
- ・妊娠期からの切れ目のない子育て支援の取り組みとして「土曜両親教室」を拠点で実施。妊娠期から拠点を知ってもらう事で、出産前から拠点の利用につながったり、出産後も利用する方が増えてきている。また産前から産後にかけて参加できるプログラムを企画し、チラシで周知したことも拠点利用につながるきっかけとなっている。
- ・新型コロナウイルス感染症の影響でひろば利用に不安がある方たちに向けて、オンラインを活用した交流や学びの場や、InstagramやYouTubeで遊びや手づくりおもちゃ、おうちからでも楽しめる動画の発信をしたことで、養育者の孤立感の軽減や、ひろばの様子を見ることができ初めての来館につながった。

〔課題〕

- ・区と共に協議を重ね開始した「土曜両親教室」は、拠点で参加できる組数に限界があるため拠点以外の会場(地域ケアプラザなど)での開催や、平日版の開催など開催回数を増やしより多くの参加を目指す。
- ・子どもの育ちに心配のある養育者が増えており、ひろばの表示やおもちゃなど、子どもたちが過ごしやすい環境を区や専門家の意見を取り入れながら作っていききたい。
- ・現在の養育者の姿から、保育園探しに忙しく仲間づくりをする時間がない利用者やコミュニケーションが苦手な利用者など多くみられ、養育者の姿が変化してきている。短期間のひろば利用で仲間づくりや少し先を見通した育児を経験できるような利用者との関わりに努めたい。
- ・拠点に来るのが難しい遠方の方に向けて、地域で出張ひろばを展開したい。

振り返りの視点

- ア いつでも気軽に訪れることができ、安心して過ごせるような配慮、工夫をしているか。
- イ 居場所を訪れる様々な利用者(養育者、子ども、ボランティア等)の間に、交流が生まれるように工夫しているか。
- ウ 多様な養育者と子どもを受け入れる配慮や工夫をしているか。
- エ 養育者と子どものニーズを把握するための工夫をしているか。
- オ 把握されたニーズを区子ども家庭支援課や関係機関と共有し、ニーズに応じて必要な支援や新たな事業、事業の見直しにつなげているか。
- カ 子どもの年齢・月齢に応じた遊びの環境が整備されているか。
- キ 子ども同士の関わりが尊重され、子どもが健やかに育つために必要なことに養育者が気付き、学ぶ機会を提供する場となっているか。
- ク 養育者同士が相談、情報交換し、課題解決し合う仕組みや仕掛けがあるか。

2.子育て相談事業

目指す拠点の姿	(参考) 2期目振り返りの課題	自己評価 (A~D)																													
		法人	区																												
①養育者とスタッフとの間に安心して相談できる信頼関係ができ、気軽に相談ができる場となっている。	・「相談者に寄り添う伴走者」として、今後も相談者の対応にあたる必要がある。 ・多様な養育者に対応していくために、さらなる職員のスキルアップのための研修を今後も続けていく必要がある。	A	A																												
②相談を受け止め、内容に応じて、養育者を関係機関につなげている。また、必要に応じて継続したフォローができています。		A	A																												
評価の理由(法人)																															
(主なデータ)																															
ひろば相談件数		ひろば利用者アンケート Q.施設について																													
<table border="1"> <thead> <tr> <th>H29年度</th> <th>R1年度</th> <th>R3年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1,953</td> <td>2,500 (東戸塚)</td> <td>2,524 (東戸塚)</td> </tr> <tr> <td></td> <td>2,057 (サテライト)</td> <td>2,023 (サテライト)</td> </tr> </tbody> </table>	H29年度	R1年度	R3年度	1,953	2,500 (東戸塚)	2,524 (東戸塚)		2,057 (サテライト)	2,023 (サテライト)	<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2"></th> <th colspan="2">満 足</th> <th colspan="2">気になることがある</th> </tr> <tr> <th>H28年度</th> <th>R1年度</th> <th>H28年度</th> <th>R1年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>子育ての相談のしやすさ</td> <td>61.0%</td> <td>66.1%</td> <td>4.0%</td> <td>0.1%</td> </tr> <tr> <td>スタッフへの話しかけやすさ</td> <td>84.7%</td> <td>87.2%</td> <td>2.7%</td> <td>0%</td> </tr> </tbody> </table>				満 足		気になることがある		H28年度	R1年度	H28年度	R1年度	子育ての相談のしやすさ	61.0%	66.1%	4.0%	0.1%	スタッフへの話しかけやすさ	84.7%	87.2%	2.7%	0%
H29年度	R1年度	R3年度																													
1,953	2,500 (東戸塚)	2,524 (東戸塚)																													
	2,057 (サテライト)	2,023 (サテライト)																													
	満 足		気になることがある																												
	H28年度	R1年度	H28年度	R1年度																											
子育ての相談のしやすさ	61.0%	66.1%	4.0%	0.1%																											
スタッフへの話しかけやすさ	84.7%	87.2%	2.7%	0%																											
<p>相談内容 H29年度 1位 子どもの生活 2位 子どもの発育 3位 就園 4位 親自身 R1年度 1位 子どもの生活 2位 子どもの発育 3位 親自身 4位 就園 (東戸塚・サテライト) R3年度 1位 子どもの発育 2位 子どもの生活 3位 親自身 4位 就園 (東戸塚) 1位 親自身 2位 子どもの発育 3位 子どもの生活 4位 就園 (サテライト)</p> <p>専門相談 東戸塚：管理栄養士・保健師・保育教育コンシェルジュ (H29年度 124件 ⇒ H30年度 130件 ⇒ R3年度 115件) サテライト：臨床心理士・管理栄養士・保育コンシェルジュ R1年度 113件⇒ R3年度 245件</p> <p>座談会 (集団相談) 栄養11回 発達懇談会2回 助産師4回 計147組参加</p> <p>スタッフ研修 スーパーバイザー(保健師)、臨床心理士、区保健師、助産師、療育センターソーシャルワーカー等</p>																															
<p>①気軽に相談できる雰囲気や仕組みづくりと相手に寄り添う相談対応を行う工夫を行った</p> <p>・スタッフの工夫について</p> <p>1.ひろばでの何気ない日々の会話を継続することで養育者とひろばスタッフの間に信頼関係が生まれ気軽に相談できる雰囲気づくりができています。また相談者自身が見通しを持ち意思決定できるよう傾聴に努め、毎日のスタッフミーティングで共有している。</p> <p>2.新規来館者にはより丁寧にに対応するよう心掛けている。利用案内時には説明だけに終わらず適切な相談の情報(子育てパートナーの常駐、専門相談など)を伝えている。</p> <p>3.養育者からの身近な相談の際には、他の養育者にアドバイスを求めるなど同じ悩みを持つ方同士をつなげて解決方法を見つけてもらえるようにしている。</p> <p>・体制について</p> <p>サテライトができたことで相談できる場や専門相談の回数、種類が増え養育者がより選択できるようになった。相談を適切に受け止められるようひろばのスタッフスペースに記録票を設置した。日々の振り返りで相談対応を共有することでひろばスタッフ相互のスキルアップにつながり、チームとして丁寧に養育者の相談対応に努めている。</p> <p>・スタッフ研修について</p> <p>スーパーバイズ研修(保健師)をR1年度より毎月の専門相談日に設定し、相談対応についてなどひろばスタッフの聞きたいことがすぐに聞けるようになった。専門相談員(臨床心理士)とのカンファレンスでは様々なアプローチの仕方をひろばスタッフが学ぶことができ、養育者との相談に活かすことができています。</p>																															
<p>②関係機関との連携を密にし、お互いに情報の共有を行った。</p> <p>1.ひろば相談では、内容に応じて横浜子育てパートナー、横浜子育てサポートシステム、区や専門相談員と連携し、継続的な見守りができている。</p> <p>2.横浜子育てパートナーが配置されたことで、ひろばスタッフも安心して相談を受けることができるようになり、区、関係機関との連携が強化され、継続的な見守りに繋がった。</p> <p>3.拠点のカンファレンスに保健師が継続的に参加したことにより、拠点の相談実状についての相互理解ができ、助言も得られた。</p>																															

評価の理由(区)

- ①区職員が定期的にスタッフミーティング等の場を活用し、相談対応の助言を行った。またひろばスタッフのスキルアップをはかるため、講座、研修、区事業をスタッフへ情報提供している。
- ②区の継続支援が必要と思われる事例や支援困難事例があった場合、関係機関につなげる体制の確認を行った。日々の相談内容の傾向について分析し、養育者の育児不安の解消がはかれるよう座談会を企画、実施。その後、まっぴい改定に活かすことができた。ひろば相談から子育てパートナーに繋がり支援に広がる仕組みがつくられた。

拠点事業としての成果と課題

(成果)

- ・相談件数の増加、話しかけやすさの満足度向上から、養育者にとって拠点が安心して相談できる場となっている。拠点に何度も通うことで養育者自身が力をつけ、スタッフへ相談する以外に、養育者自ら周囲の養育者へ尋ねて解決したり、他の養育者にアドバイスしたりする姿も見受けられるようになり、養育者同士が気軽にやりとりできるような関係構築につながった。
- ・横浜子育てパートナーが配置されたことで、ひろばスタッフも安心して相談を受けることができるようになり、横浜子育てパートナー、ひろばスタッフが両輪となって相談対応することで継続的な見守りにつながった。また、スーパーバイズ（保健師）研修やスタッフ勉強会を毎月行い、ひろばスタッフのスキルアップに繋がった。
- ・ひろばスタッフが受けた相談は養育者の相談内容に応じ、横浜子育てパートナー、横浜子育てサポートシステム、専門相談員（臨床心理士）、区と連携し、必要な支援へつなぎ、継続的な見守りにつながった。
- ・専門相談の予約段階や当日の天候不良の為、オンライン希望の方には対応し不安軽減に繋がった。

(課題)

- ・相談内容の傾向について把握、分析し、養育者のニーズをひろば運営につなげていくことが必要。
- ・サテライト開所や世代交代により新人スタッフが増えたので、引き続き傾聴等テーマとした相談スキル取得の研修を企画、実施し、ひろばスタッフ全体の相談対応におけるスキルアップへ取り組む。
- ・区と拠点、お互い顔の見える関係性を構築できるような連携を継続。必要時、相談事業で双方が連携し、養育者のニーズに応じ、タイムリーな相談対応を目指す。

振り返りの視点

- ア 養育者が相談しやすい仕組みづくりや工夫をしているか。
- イ どのような相談に対しても傾聴し、相手に寄り添う相談対応を行っているか。
- ウ 相談内容の傾向を把握し、振り返りを行い、望ましい対応の検討や共有に努めているか。
- エ 区子ども家庭支援課との連携のもと、各種専門機関の役割を把握し、養育者への効果的な支援を行うための連携、連絡体制を作っているか。
- オ 専門的対応が必要と考えられる相談について、区子ども家庭支援課と相談しながら適切に対応しているか。
- カ 関係機関とつながった後にも、役割分担に応じて、継続的な関わりを持っているか。

3 情報収集・提供事業

目指す拠点の姿	(参考) 2期目振り返りの課題	自己評価 (A~D)	
		法人	区
①区内の子育てや子育て支援に関する情報が集約され、養育者や担い手に向けて提供されている。	様々な団体が情報提供しているが、提供媒体(ホームページやメールマガジン)にたどり着けない養育者がまだ多く存在し、情報収集の方法がわからないという声があった。点在する情報をまとめ、検索しやすい仕組みを検討する必要がある。特に妊娠期については、母子健康手帳交付時と母親教室にて情報周知に努め、さらに産婦人科医院・病院の訪問を行い、子育てに関する情報の配架をしてもらえるよう協力依頼を行う。	B	A
②子育てや子育て支援に関する情報の集約・提供の拠点であることが、区民に認知されている。		A	A
③拠点の情報収集、発信の仕組みに、養育者や担い手が積極的に関わっている。		A	B

評価の理由(法人)

(主なデータ)

発行物：「つうしん」2000部/月(市内関係施設130か所に毎月送付) 「情報紙ゆめ」 2000部(年2回) 「まっぴい」(年1更新)

配信ツール：メルマガ(R2.6月終了)「とっとあぶり※注1」 毎週金曜配信 登録者数 1626件、ホームページ、ブログ 「地域こそだてカレンダー※注2」

Instagram： フォロワー数1201件 投稿数157件 youtubeでの動画配信数20件等

周知活動：広報とつか 隔月でトピックスを掲載、エフエム戸塚(月1回)

養育者企画の情報グループ：「情報紙ゆめチーム」 4名

「まっぴいママプロジェクト」 5名

※注1 とっとあぶり：区内で行っている子育てイベントや講座、区役所からの臨時情報などを配信するアプリ

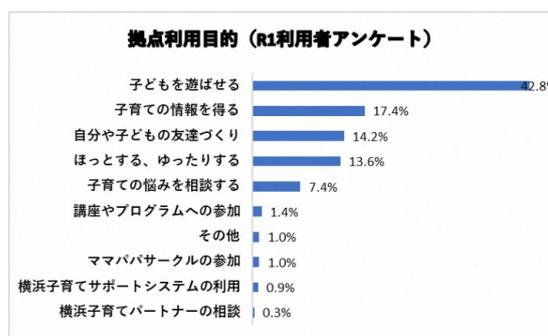
※注2 地域こそだてカレンダー：地域情報をまとめたホームページ。アプリ情報と連動している

R1戸塚区アンケート：

【子育てに関する情報収集の方法】

「インターネット(SNS)」68.3%、「保育園・幼稚園」37.1%、「口コミ」29.2%、「新聞・テレビ・雑誌」22.5%

その他：R1拠点利用者アンケート調査「拠点の利用目的」の回答→「子育ての情報を得る」が2番目に高い(区調査・拠点調査・市域調査全て2位)



① 様々な媒体とネットワークを活用した情報の収集と提供を行った

1.紙面、WEB(ホームページ・ブログ)、メールマガジン、とっとあぶり、子育て応援ルームとことこ※注3と連携し、広報とつかなどの媒体を活用し、地域の子育てイベントや講座、拠点の様子などを区民にタイムリーに幅広く情報発信した。特に情報収集の手段としてスマートフォン(SNS)利用が増加していることから、より見やすく情報提供ができるアプリを岩崎学園情報専門学校と共同で開発した。妊婦向けの情報もアプリに集約したことで、就学前までの情報を切れ目なく提供できるようになった。今後はより多くの養育者に活用してもらえるようアプリの周知活動、内容を充実させていく。

2.コロナで地域施設が休止してしまった期間にはInstagramなどのSNSを活用し、自宅で楽しめる遊びの紹介など情報を発信した。また区や地域で支援をしている方の配信協力を行った。SNSを利用していない養育者に向けては、つうしん瓦版として遊びの紹介記事を掲載し、拠点の入り口や店舗など通りがかりに手に取れる場所に配架した。

3.初めての拠点利用者には、居住地域の情報セットやまっぴいを活用しスタッフが近隣情報を伝えている。また離婚相談、ひとり親家庭支援、児童虐待などのパンフレットはひろば掲示の他、手に取りやすいよう封筒と共にトイレに用意し、こまめに補充や入れ替えを行った。

4.スタッフが地域の支援会場へ見学や訪問し、支援者や参加者と直接話したことや実際に見聞きした生きた情報をスタッフで共有し養育者・担い手に向けて提供・発信した。また支援者とのつながりもでき、地域で周知したい情報の発信依頼を頂けるようになった。

5.保育園情報が欲しいという養育者のニーズに答え、保育園アンケートを実施、ひろばで閲覧できるようにした。また、オンラインにて先輩ママたちによる保活講座※注4を実施し、拠点に来館できない養育者たちにも情報を届けた。

②情報提供機能が区民に認知されてきている

1.拠点の情報収集・提供機能について、関係機関からの情報の集約の他に、行政広報誌・地元ラジオ局等様々な方法で区民に周知を行った。(広報とつか、エフエム戸塚、地域フリーペーパーなど)

2.地区別子育て連絡会を通じて情報収集・提供を積極的に行ったことで、さらに拠点へ地域情報を頂けるようになった。またメールマガジンやアプリをきっかけに、地域の支援会場に訪ねた参加者がいたという声がかかる。

3.子育て支援活動をしている団体からのチラシ配架依頼が増えた。持ち込みの場合は活動内容の聞き取りをし、連携できることがあれば提案をした。

4.区との連携で、産婦人科医院・両親教室での情報提供が可能となり妊娠期の方へ情報を届けることができた

③養育者・担い手が情報発信に関わる企画や仕組みを構築した

1.幼稚園口コミ情報では、来館した幼稚園児を育てる母にアンケートを行い、集めた情報をひろば内で閲覧できるようにしたところ利用者・担い手にとっても好評だった。

2.養育者が中心となって企画・取材を行い、子育て情報紙を年1~2回発行し、市内関係機関へ送付した。

3新型コロナウイルス感染症予防対策によるイベント・講座の中止など急な変更情報が地域の担い手から情報提供があり、アプリやメールマガジン、ホームページで臨時配信を行った。

4.戸塚区内の子育て情報をまとめた冊子「まっぴい」のリニューアル作業や記事の作成に養育者が参画し、当事者ならではのアイデアを活かし作業に取り組んだ。

評価の理由(区)

①②こんにちは赤ちゃん訪問、母子訪問、まっぴいから拠点を知る人もおり、母子手帳交付時、乳幼児健診、家庭訪問等で拠点の情報提供を行い、区内の幅広い地域へ周知し、利用につなげている。

情報を届ける仕組みとして、紙媒体でまっぴいを作成、R3年度からは区ホームページにも掲載し、毎年情報更新を実施した。広報よこはま戸塚区版にコラムや戸塚区の子育て情報をテーマに掲載し拠点事業を周知できるよう働きかけた。

拠点の子育て情報アプリ開発の後方支援を実施し、より見やすく、タイムリーな情報が得られる仕組みができた。アプリ配信後は、利用者・支援者への周知の検討を重ねていく。

①まっぴいは継続した基本的な情報、アプリは最新の情報を発信できるように整理して、わかりやすくなった。

②③令和2年度まっぴい作成に向けて、養育者の声を聴く場として、令和元年度に座談会を開催した。まっぴい改定企画に養育者が携わり、より親子のニーズを取り込んだ内容となった。

子育て連絡会、地区別連絡会を開催。地域の子育て支援関係者(拠点、保育園、ケアプラザ、主任児童委員、子育て支援者など)の参加が広がり、地区単位での子育て世帯のニーズの把握、情報交換、発信の場となっている。

拠点事業としての成果と課題

(成果)

・地域の支援会場への訪問や地区別連絡会を通して、実際に見聞きした情報をスタッフ間で共有し養育者・担い手に向けて提供・発信することができた。また地域の支援者に向けて情報発信機能の周知活動をしたことで、緊急時や集客したいイベントの周知協力依頼が増えた。拠点の情報発信ツールがきっかけで地域のイベント参加へつながる養育者も増えた。

・今まで行っていたメールマガジンと地域こそだてカレンダーを連動させ同一情報が配信できるアプリを開発したことで、配信内容の誤りや誤配信をなくし、正確な情報をタイムリーに養育者・担い手に届けることができた。

・紙媒体やアプリ、SNSも活用しさまざまな媒体で拠点に来ることが難しい方たちへも情報を届けることができた。

(課題)

・拠点を利用しにくい地域の親子への情報提供について、地域の施設や担い手の方からも拠点の情報機能が伝わるよう、地域とのつながりを大切に、日々の情報交換や地区別連絡会などで発信していく。また、担い手と効果的な情報発信方法を一緒に考え協力していく。同様に拠点に地域情報を発信できる仕組み(アプリ、ホームページ、SNSなど)を引き続き整理し発信していく。

・情報過多により、どこに情報を取りに行けばいいかわからないという養育者の声がある。引き続き養育者のニーズ把握に努め、担い手からの生きた情報を含め情報内容を整理していく。

振り返りの視点

ア 養育者や担い手が必要としている情報が何かをとらえ、区内の幅広い地域の子育てや子育て支援情報を収集・提供しているか。

イ 来所が困難な養育者や担い手も含め、情報を入手しやすいよう、さまざまな媒体や拠点以外の場を通して情報発信しているか。

ウ 利用者が情報を入手しやすく、自ら選べるひろば内の工夫をしているか。

エ さまざまな子育て支援の場に出向いて収集した具体的な情報や、関係機関及びネットワークを通じて得た情報を養育者や担い手に提供しているか。

オ 拠点の情報収集・提供機能を幅広く区民に周知しているか。

カ 養育者や担い手から拠点に情報が届けられる仕組みや工夫があるか。

キ 情報収集・提供の企画に養育者や担い手が関わる仕組みや工夫があるか。

4 ネットワーク事業

目指す拠点の姿	(参考) 2期目振り返りの課題	自己評価 (A~D)																															
		法人	区																														
①地域の子育て支援活動を活性化するためのネットワークを構築・推進している。	<ul style="list-style-type: none"> ・地区別子育て連絡会で培ったネットワークを利用し、地域でさらに拠点機能が活用できるよう目指していく。 ・地区別子育て連絡会で把握した課題を区全体で共有し、地域で課題解決に向けた取り組みができるよう目指していく。 	A	A																														
②ネットワークを活かして、拠点利用者を地域へつないでいる。		A	B																														
☆さまざまな養育者・地域関係者が拠点機能を利用できる(H29年度～)		B	B																														
評価の理由(法人)																																	
<p>(主なデータ)</p> <p>①-1区内関連施設との会議</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子育て連絡会全体会 (H30年度より年2回開催) 参加者数 H30年度 92名 R1年度 107名 R2年度 194名 R3年度 119名 ・地区別子育て連絡会 延べ開催数 H29年度30回 H30年度31回 R1年度28回(中止2回) R2年度21回 R3年度21回 おもな参加団体：区、拠点、親と子のつどいの広場、地域ケアプラザ、子育て支援者、主任児童委員、地域のサロン、私/市立保育園、幼稚園、戸塚スポーツセンター、プレイパーク、区社協、戸塚図書館、男女共同参画センター横浜 ほか ・子育て支援者会議(毎月) ・主任児童委員会(随時) ・母子訪問指導員連絡会、こんにちは赤ちゃん訪問員定例会(随時) ・親と子のつどいの広場連絡会(年2回) ・ハートプラン策定推進委員会(年3回) ・地域のサロン訪問(H30年実施)⇒延べ34か所 ・とつかおやこフェスタ※注1 事務局会議(毎月) ・とつかおやこフェスタ来場者 R1年度約2,600名 R2年度(動画配信) R3年度1,801名 <p>※注1 とつかおやこフェスタ 子育て支援団体が出展する子育て中の家族向けイベント</p> <p>①-2子育て支援に取り組む団体・個人・企業との連携</p> <p>横浜市地域子育て支援拠点、認定NPO法人こまちぶらす、障がい関係グループのネットワーク「ポンテ」、戸塚地域療育センター、地域福祉活動ホームひかり、男女共同参画センター、マザーズハローワーク、市民団体(みんなの絵本のおうち、お茶の間楽交等)、イオンスタイル東戸塚店、西武赤ちゃん本舗、全国子育てタクシー協会、モレラ東戸塚共栄会、とつか区民活動センター、薬樹薬局、共立レディースクリニック、NPO法人こどもと未来、フードバンク浜っ子南、戸塚スポーツセンター、戸塚文化センターさくらプラザ、横浜市立大学、横浜保育福祉専門学校、俣野公園プレイパーク など</p>																																	
<p>☆とつか公園あそび隊活動実績※注2 (右表)</p> <p>R1年戸塚区アンケート とつか公園あそび隊※注2 認知度⇒26.8% (“知っている”川上町46.2%、品濃町42.9%、上倉田町35.3%)</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <caption>とつか公園あそび隊実績</caption> <thead> <tr> <th></th> <th>H30年度</th> <th>R1年度</th> <th>R2年度</th> <th>R3年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>企画数</td> <td>23</td> <td>23</td> <td>17</td> <td>22</td> </tr> <tr> <td> 開催</td> <td>18</td> <td>18</td> <td>16</td> <td>19</td> </tr> <tr> <td> 中止</td> <td>5</td> <td>5</td> <td>1</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>参加組数</td> <td>310</td> <td>293</td> <td>277</td> <td>274</td> </tr> <tr> <td>支援者数</td> <td>155</td> <td>136</td> <td>137</td> <td>141</td> </tr> </tbody> </table> <p>※注2 とつか公園あそび隊：地域ごとに開催する公園遊びを中心とした外遊び企画。拠点は取りまとめなどの事務局を担い、地域の支援者が主体となって運営している</p>					H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	企画数	23	23	17	22	開催	18	18	16	19	中止	5	5	1	3	参加組数	310	293	277	274	支援者数	155	136	137	141
	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度																													
企画数	23	23	17	22																													
開催	18	18	16	19																													
中止	5	5	1	3																													
参加組数	310	293	277	274																													
支援者数	155	136	137	141																													

①地域の子育て支援活動を活性化するためのネットワークを構築、推進している

- 1.地域ケアプラザ単位で行っている地区別子育て連絡会に事務局として関わり地域の子育て支援と一緒に取組んだ。
- 2.子育て連絡会全体会では、区とともに事務局を担い、コロナ禍でもいち早くオンライン開催を取り入れることにより、つながりを絶やすことなく、さらにより多くの関係者が参加できる体制を整えた。全体会で取り上げる内容には地域の支援活動に活かせるような取り組みの紹介や、親子を取り巻く現状についての研修を盛り込み、地域活動に活かせるようにした。また、ワークショップを開催、各地区での取り組みにつながった。
- 3.とつかおやこフェスタでは、拠点のネットワークを活かして関係機関、子育て支援サークル、NPO、市民団体、企業との調整を行い、参加者同士のつながりが生まれるような企画を区と協力し開催した。
- 4.親と子のつどいの広場4か所と区および拠点でつどいのひろば連絡会を毎年開催している。各広場の困りごとや課題を共有し、拠点のホームページやアプリでひろばの情報を発信するなど各種連携ができた。
- 5.18拠点の施設長間で連携し、子育て支援についての調査研究や、研修、フォーラムを開催した。拠点スタッフ間でも、SNS発信の方法や内容の共有をはじめ、緊急事態宣言下の親子に向けた支援策やひろば開所に向けての情報共有など活発なやりとりができた。
- 6.よこはまシニアボランティアポイント導入(R1年度)を契機に他分野(栽培、読み聞かせなど)の活動者や団体とのつながりができた。
- 7.子育て支援の社会資源が少ない地域で俣野公園プレイパークと共催で出張プレイパークを開催した。実施に当たり、町内会関係者から助言を受けたり拠点ボランティアがプレイパークにつながったりするなど新たなつながりが生まれ、近隣の子育て親子からも喜ばれたほか、フードバンクを拠点が持つネットワークを活かして様々な団体をつなぎ連携の輪を広げることができた

②拠点利用者を地域へつなぐためのしかけづくりを行った

- 1.転入や第一子出産などで、子育てに関する地域資源の情報に乏しい利用者には“地域情報セット”(特定のエリアに関する地域資源情報をひとまとめにしたパッケージ)をスタッフより説明を添えて手渡している。さらに、該当の地区担当や土地勘のあるスタッフが丁寧に利用者に寄り添いながら地域情報を提供している。
- 2.横浜子育てパートナーや地区担当が地域の子育て支援サークルを訪問し、運営状況の把握や運営者との顔つなぎ等を行うことにより、利用者を地域へ繋ぐ際にスムーズな連携ができています。
- 3.親と子のつどいのひろば連絡会での情報交換により、利用者へ各ひろばの状況や強みなども踏まえて案内ができるようになった。

☆築いたネットワークをもとに、さまざまな養育者・地域関係者を拠点機能に結びつけている

- 1.とつか公園あそび隊は地区別連絡会をベースに企画されているため、戸塚区内ほぼ全域で開催できており、距離的に日常的なひろば利用が難しい養育者との接点となっている。また、公園遊び時の町内会館のトイレ使用許可の声かけが町内会関係者からあったり、公園愛護会からのゴミ袋の提供など、開始5年を経て地域住民にも公園あそび隊の名称が浸透しつつあり窓口としての拠点ともつながりがひろがった。
- 2.地区別子育て連絡会を通して、地域関係者が拠点の情報配信ツール(地域こそだてカレンダー、メールマガジン、とつとあぶりなど)を情報発信に活用することができている。
- 3.SNSでの発信(instagram,youtubeなど)を開始。電話や来所での拠点利用に抵抗を感じている養育者の接点のひとつとして機能しはじめています。地域で活動する支援者にも拠点SNSの存在を紹介し、これを利用して発信できることを案内している。
- 5.地域のニーズを見極め、拠点のプログラム(土曜両親教室・0歳児プログラムなど)の地域開催など、地域と相談しながら検討していく。
- 6.子育て連絡会全体会で取り上げたことをきっかけに"まちあるきワークショップ"を開催。子育てに限らず広く地域活動をしている人を対象にしたことにより、地区社協会長や民生委員などに拠点を利用してもらう機会となり、関係づくりができた。

評価の理由(区)

①地区別子育て連絡会は、区・拠点・地域交流コーディネーターが事務局となり、区内10か所で開催。地域の関係者や関係機関との連携を強化し、地区にあった取り組みを進めている。また、子育て連絡会全体会として、子育ての現状と各地区の特性や方向性を共有し、地区別連絡会の運営にいかせるものとしている。つどいの広場連絡会を開催することで、ひろば機能やつどいの広場の連携の強化につながった。

とつかおやこフェスタを継続して開催したことにより、民間団体を含めさまざまな関係機関と繋がり、ネットワークを構築することができた。

②地区別子育て連絡会のネットワークを活用し、公園あそびやマップなどの情報を拠点利用者に届けられるようにしている。
☆公園遊び隊事業を地域の公園で開催することで、拠点に物理的に来ることが難しい養育者へ外あそびの大切さを伝える機会となった。

拠点事業としての成果と課題

(成果)

・地区別子育て連絡会、つどいの広場連絡会、とつかおやこフェスタなどを通し、地域との連携強化は着実に進んでおり、それに伴い利用者をきめ細やかに地域へつなぐことができている。コロナ禍においてもオンライン活用が実現し、途切れることなく地域とのつながりを保つことができた。横浜市版子育て世代包括支援センターとして、区とともに産科医療機関との連携も開始した。地域と拠点、それぞれの機能を生かすことができる連携の形を模索しながら取り組んでいる。

・子育て連絡会全体会では、子育て支援関係者同士で区域共通の課題について話し合うことができている。
・公園あそび隊は徐々にではあるが地域に浸透しつつある。その地域に応じた形での定着を目指し、ネットワークを活かしながら協力・運営している。

(課題)

・子育て連絡会全体会では、親子のニーズをとらえつつ、戸塚区全体としての実情を把握し、関係機関と共通認識をとりながら方向性を整理していく。

・公園あそびは、イベント化、形骸化しないための方法の検討など、連絡会・地域との連携を深めながら取り組んでいく。

振り返りの視点

ア 子育て家庭や地域の子育て支援関係者のニーズを踏まえ、連携促進に取り組んでいるか。

イ 地域の子育て支援関係者が、互いに知り合い、理解し、子育て家庭の状況及び子育て支援の情報や課題を共有するための場、機会をつくりだしているか。

ウ 地域の子育て支援関係者が協力し、支え合えるように、関係者同士をつないでいるか。

エ 養育者を身近な地域の子育て支援の場につなげているか。

オ 子育て支援活動に関心のある方を丁寧を受け止め、必要に応じて身近な地域の活動へつないでいるか。

5 人材育成・活動支援事業

目指す拠点の姿	(参考) 2期目振り返りの課題	自己評価 (A~D)	
		法人	区
①地域の子育て支援活動を活性化するため、担い手を支えることができています。	<ul style="list-style-type: none"> ・子育て家庭をあたたく見守る地域づくりのために、区と拠点で連携を継続していく必要がある。 ・新たな人材発掘のために、講座開催方法等を検討する必要がある。 	A	A
②養育者に対して地域活動の大切さを伝えるとともに、地域の子育て支援活動に関心のある人が、活動に参加するきっかけを作っている。		B	A
③広く市民に対して、子育て家庭を温かく見守る地域全体での雰囲気づくりに取り組んでいる。		B	A
④これから子育て当事者となる市民に対して、子育てについて考え、学び合えるように働きかけている。		A	B

評価の理由(法人)

(主なデータ)

- とっとの芽ボランティア登録数 東戸塚 91名 サテライト 24名 計 115名 (R3年度末時点)
- とっとの芽ボランティア実働数 東戸塚 193名 サテライト 205名 計 398名 (R3年度末時点)
- 地域支援者との会議・研修等：子育て支援者定例会(毎月)、つどいの広場連絡会(年2回)、主任児童委員遊びの講座(年1回)、地区別子育て連絡会 延べ開催数 (R3年度21回)
- 保育教材貸し出し数：H29~R3 計309点
- 学生実習・見学受け入れ人数：H29~R3 述べ52校 述べ528名(大学・専門学校372名、中学校36名、小学校120名)
- 親子サークル登録団体数：H29年度⇒15サークル、H30年度⇒16サークル、R1年度⇒12サークル R3年度⇒6サークル
- 啓発・周知の場：地域施設連携促進研修会(毎年)、地域福祉保健計画会議(毎年)、地域づくり大学校(R1)、大学講義2校(R1)

【主なとっとの芽のサークル活動(R3年度)】

- ・ちよきとママの会※注1 参加人数：年6回 延べ 30名
 - ・ふたごみつごの会※注2 参加人数：年11回 延べ 26名
 - ・劇団びよびよ※注3 参加人数：年19回 メンバー10名 出演場所：拠点おたのしみタイム、とつかおやこフェスタ、地域の支援会場等
 - ・おんがく隊 参加人数：年2回 16名
- ※注1 ちよきとママの会：発達がちよと気になる子を持つママの会
 ※注2 ふたごみつごの会：多胎児を育てる養育者の会
 ※注3 劇団びよびよ：利用者で結成した人形劇団

①地域で子育て支援にかかわる団体・個人と連携し、地域活動の活性化を図った

- 1.地区別子育て連絡会に事務局として関わり、地域の子育て支援と一緒に取り組んだ。
- 2.つどいの広場連絡会を毎年開催し、それぞれの施設の様子や取り組みを共有できた。拠点のスーパーバイザーを連絡会に招き、相談対応について意見交換を行い日々の活動に活かせることができた。
- 3.主任児童委員からの依頼で年1回遊びの講座を実施、日頃の活動で取り入れられる簡単な遊びや手づくりおもちゃを紹介している。
- 4.子育て支援者会場などから写真やコメントを集め、とっとの芽ホームページで紹介。今後は、主任児童委員が行う子育て支援サークルや親子サークルの情報についても同様に紹介できるように調整しており、周知の協力をしている。
- 5.地域の支援者向けに保育教材(大型絵本等)の貸出しを行っている。

※主な貸出先：主任、学校読み聞かせボランティア、親子サークル、保育園等

②子育て支援に関心のある人や、養育者自身の活動意欲に寄り添い、活躍できる場に繋いだ

- 1.新たなボランティア活動希望者を呼び込むことを目指しよこはまボランティアポイント制度を導入した。ボランティアが企画した内容を取り入れ、積極的に関われるようにしている。
- 2.利用者主体で立ち上がった人形劇サークル「劇団びよびよ」が、とつかおやこフェスタに出演したことで、周知の機会となり活動の場所が広がった。また「ふたごみつごの会」は先輩ママが新米ママのサポートに入るなど参加者同士が助け合う土壌ができていて、まちで見かけた多胎児を持つ親へ向けても声掛けをしつらつながりが広がっている。子育て応援ガイドブック「まっぴい」の改定のため区と共に開催した「まっぴい座談会」に参加した養育者が「まっぴいママプロジェクト」として、企画・編集に携わってもらっている。
- 3.ボランティア入門講座として絵本の読み聞かせを開催したところ、利用者約10名とシニア世代が参加し「絵本の会」が発足。サテライト立ち上げ時の購入本リストアップや配架準備などで活躍した。
- 4.地域福祉保健計画と連携し「子どもにかかわるボランティア入門講座」を企画。保育付きにしたことで子育て当事者も参加することができ、また参加者の活動先紹介として拠点だけでなく近隣施設の紹介も盛り込んだことで13名の申込があり、その後の活動につながった。

5.拠点利用者の得意なことなどを聞き取り、講師として活躍できる場の提供や、地域につなぐことができた。

6.働く母の増加で、平日の日中に参加できる親子の減少傾向から親子サークルに加入する親子も減少しているため、サークル継続が難しくなってきた。仲間とともに子育てをしていくことの視点を大切にしながら支援していくことが必要である。

③地域で子育て家庭を見守る大事さを伝えた

1.施設見学者や実習生、学校・関係機関からの依頼で、横浜市の子育て調査データや子育て家庭の現状、拠点の役割、子育て支援の場の必要性や地域全体で子育て家庭を見守る必要性を伝えた。

2.中学生の職業体験や近隣小学校の社会科見学では、拠点の役割を伝え、ひろばで過ごす赤ちゃんの抱っこ体験を行った。体験した中学生のほとんどは、親に感謝したい気持ちになったと拠点に来たことを喜んでいて。

3.高齢や障がいなどの関係機関が参加する場へも出向き、子育ての現状や拠点の役割を伝えた。

④小・中学生・高校生・専門学生・大学生、妊娠中の夫婦に子育て体験できる場を提供した

1.卒業研究、実習、ボランティア体験などで学生を積極的に受け入れたことで、養育者との交流や子どもと触れ合うことができ、子育ての楽しさ、大変さを伝えることができた。また、自身が親になる前に赤ちゃんのお世話を体験できる場となり喜ばれた。

2.妊娠期の夫婦対象に土曜両親教室を毎月開催した。0歳児をもつ夫婦と交流できる時間を設定したことで実際に赤ちゃんを抱っこしたり、先輩からのアドバイスを聞くことができ、産後の赤ちゃんとの生活のイメージ作りができたことと好評を得た。

評価の理由(区)

①子育て連絡会やつどいの広場連絡会を通じ、研修や情報交換の場をつくることで、各地域の担い手のモチベーションの向上や活動の活性化につながった。公園あそび隊では、地域の担い手に対し、外遊びの大切さを再度伝えることで、知識の向上と活動の充実につながった。

②③とつかおやこフェスタでNPO法人やママサークルの劇団が参加することで当事者が活躍できる場を提供し、当事者の意欲向上につながった。合わせて、区民に現状を伝える機会となった。地区別子育て連絡会で子育ての現状や子育てについて話し合い、地域活動の大切さを確認している。地域福祉保健計画など他課とも情報交換しながら支援している。

②親子サークル支援では、交流会の他、ケアラザで活動を始めるサークルと区の事業との連携について検討、また公園遊びにサークルを招くなどして、活動を支えるための支援を行った。

④拠点が実施する土曜両親教室では、プレパパプレママと先輩パパママとの交流について意義を伝え内容に盛り込むよう助言し、学びあえる視点を取り入れることができた。

④中学生の職業体験のプログラムに地域子育て支援拠点も加えてもらえるようにし、体験の場になるよう調整した。

拠点事業としての成果と課題

(成果)

- ・ひろば利用者やボランティアの声をとりいれ、得意なことを活かした取り組みや活動につなげることができた。
- ・子育て家庭の現状や課題、子育て支援の必要性を地域支援者や学生、地域福祉保健計画会議などで発信することができた。
- ・地域の担い手や支援者に対し、情報発信や講座の実施、相談対応についての助言を行うことで、地域の活動を支えることができた。

(課題)

- ・親子サークルに加入する親子も減少や企画などの負担感から、サークル継続が難しくなっている。拠点・区共に活動の意義や目的を再確認し、仲間と子育てをしていくことの視点を大切にしていくとともに、今のニーズにあった形で地域の担い手と活動を支えていけるようにしていくことが必要である。
- ・拠点ボランティアや横浜子育てサポートシステム提供会員など多世代にわたる地域の担い手が、広く地域全体で子育て支援に取り組む雰囲気づくりを目指したい。

振り返りの視点

- ア 子育て家庭や担い手のニーズを踏まえ、活動意欲の向上やスキルアップにつながる取組がなされているか。
- イ 地域の子育て支援活動がより充実されるよう、必要に応じて新たな活動希望者を結び付けているか。
- ウ 新たな担い手を発掘・養成する取組がなされているか。
- エ 活動希望を丁寧に受け止め、拠点内の活動や身近な子育て支援活動等に結び付けているか。
- オ 養育者が地域を身近に感じ、地域の活動に関心を持てるように働きかけているか。
- カ 地域で子育て支援に関わる人が増えているか。
- キ 子育ての現状や子育て支援の必要性を周知・啓発しているか。
- ク 子育て家庭(妊娠期の方を含む)を温かく見る気持ちを持つことができるように働きかけているか。
- ケ これから子育て当事者となる市民と子育て中の親子がふれあい、学び合う機会や場を作っているか。

6 横浜子育てサポートシステム区支部事務局運営事業

目指す拠点の姿	(参考) 1期目振り返りの課題	自己評価 (A~D)	
		法人	区
①子育てサポートシステムに、多くの区民の参画が得られている。	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き会員のニーズを汲み取りながら利用調整をしていく。また、利用会員が必要な時に利用しやすい仕組みづくりを検討していく必要がある。 ・多世代(現役の子育て世代～シルバー世代)の提供会員が増えるように、関係機関や多世代の地域住民に向けた効果的な周知方法を検討する。 ・子育てサポートシステム開設時から、子育てを取り巻く社会情勢の変化にともない、早朝、深夜、長時間の依頼等といった支援が困難な事例が増加してきており、本制度の在り方について検討する必要がある。 	A	B
②養育者にとって、必要な時に利用しやすい事業となっている。		A	A
③会員が地域の支え合いの良さ、大切さを理解しながら、利用や活動を継続できるように、支えることが出来ている。		B	B
④養育者の利用相談内容に応じて、子育て相談や他機関等の情報を提供し、必要な支援につなげている。		A	B

評価の理由(法人)

(主なデータ)

会員数

	全体	利用会員	提供会員	両方会員
H28年度	754	577	136	41
R1年度	1,032	828	162	42
R3年度	1,100	903	155	42

活動件数

H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度
2,012	2,087	2,745	2,538	2,784

事前打ち合わせ同席件数

H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度
113	137	164	122	172

ひろば預かり件数

H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度
36	76	161	154	205

●利用会員、両方会員向けアンケート (H30.8月 戸塚区支部実施) 回収42件 利用したことがある人の回答20件 「事前打ち合わせで確認したことで利用する際の安心感につながったか」 : はい又はどちらかというとはい 100% 「依頼した内容で提供会員の紹介が受けられたか」 : はい又はどちらかというとはい 100%

●区民意識調査 (R1) 日常生活の中で地域の人を手伝えること こどもの預かり : 5.0%、地域の人何か活動を始めたら協力したいか「積極的に協力したい」4.8%、「機会があれば」61.8%、ボランティアをしているか60歳代～増加「60歳代」15.5%

●区役所「とつとの芽」に関するアンケート ボランティア活動参加について「子育てが落ち着いたら考えたい」37.1%

① 幅広く周知したことで、多くの区民の参画が得られた

- 1.ホームページやつうしん、区内のイベント等で幅広く周知し、横浜子育てサポートシステムの認知が広がった。また提供会員拡大を意識し、地区別連絡会で地域の子育て支援関係者に周知したことで、会員拡大につながった。
- 2.区社協、とつか区民活動センターと連携し、特に高齢者等の提供会員向けに入会説明会を開催し、会員拡大に取り組んだ。
- 3.提供会員は会員の口コミでも増えていることから、横浜子育てサポートシステムの理解とコーディネーターの対応が会員に受け入れられている。
- 4.区と連携し、さらに提供会員になりえる新たな層の獲得を考えていく。(中学校のPTAなど)
- 5.戸塚駅周辺、サテライト周辺の需要が多いので周知に力を入れて会員を増やしていきたい。
- 6.サテライトでの入会説明会を定期的で開催。子サポの日を作り、コーディネーターがサテライトに常駐する日を設けた。

② 養育者の事情に合わせて柔軟に対応した

1.集団の入会説明会の日程が合わない場合や緊急で援助が必要な養育者には、都度個別の入会説明を行い、利用しやすいよう柔軟に対応した。

(入会説明後、直ちに入会手続きを行いコーディネートした/外出が難しい養育者には、お宅へ訪問し入説した…など)

2.ひろばスタッフや横浜子育てパートナーと連携し、横浜子育てサポートシステムに関心のある利用者や援助が必要な利用者には、その場でヒヤリングし利用につなげた。

3.養育者の疾病等緊急を要する対応が必要な場合や、当日依頼にも柔軟に対応した。また、連日長時間にわたる依頼には複数の提供会員を紹介し、定期的にフォローした。

③ 会員の状況把握をベースに、関係構築に努めた

- 1.利用会員の依頼に寄り添い、提供会員の状況（思いやキャパシティなど）を把握し、合意のもとにサービス利用へつなぐよう丁寧にコーディネートを行った。利用会員へのアンケート調査では、提供に対する満足度は比較的高く、会員同士の信頼関係のもとに安心安全な活動へつながっている。
- 2.利用会員と両方会員にアンケート調査を行った。提供に対する満足度は高い一方で個人情報の取り扱いへの不安やコーディネーターの対応についての指摘があったことから、コーディネーター間で共有し、注意事項について再確認するとともに横浜子育てサポートシステムについての理解をお願いした。
- 3.お試し預かりの期間を延ばしたことで、お試し預かりを利用する会員が増えた。その預かりの様子をひろば利用者が見ること、ひろば預かりとリフレッシュ利用の宣伝、周知につながり利用が増加した。今後は、また登録していない人へ登録のきっかけづくりとなるように検討していきたい。
- 4.個人情報の取り扱いについて、拠点内でワークを行いフローチャートを作成した。また、会員向け案内文を作成し、より分かりやすく個人情報についての注意喚起をした。引き続き、個人情報の保護を職員・提供会員含め徹底していく。

④ 区や拠点内で連携し、養育者へ適切な情報を提供し支援につなげた

- 1.区や横浜子育てパートナー及びスタッフと連携し、必要に応じて地域情報を提供し実際の利用につながった。（つどいの広場での一時預かり、緊急一時預かり、子育てタクシーなど）
- 2.区内の一時預かりに空きがなく、横浜子育てサポートシステムが最後の砦となっていることを感じる。

評価の理由(区)

- ①広報よこはま、こんにちは赤ちゃん訪問員の連絡会やとつかおやこフェスタの動画などで周知する場を設けることができるよう協力し、登録者の増加につながった。
- ①課内に事業周知をはかり、窓口で案内、必要な方に情報が届くようにした。
- ②③より地域で利用しやすい事業となるよう子育て連絡会で横浜子育てサポートシステムについてのPRを担当者から行いシステムを知ってもらう機会となった。
- ③個人情報保護・安全確保について、確認助言を行い適正に取り扱えるようにした。
- ④専門的な対応が必要な方も、サービス利用ができるよう連携して支援した。

拠点事業としての成果と課題

【成果】

- ・幅広く事業周知したことで、より多くの人に知ってもらうことができ、会員数増加につながった。
- ・養育者の事情に合わせ入会説明会を行い、利用しやすいように対応した。丁寧にコーディネートを行うことで、会員同士の信頼関係のもと援助活動を行うことができている。
- ・ひろば預かりやリフレッシュ利用が増加していることから、気軽に預けられることが周知されてきている。
- ・入会説明会は、コロナ禍で出張説明会ができないこと、人数制限を余儀なくされた対策として、オンラインでの説明会を開催し、外出が難しい養育者のニーズに答えた。それによって会員数増加に繋がった。

【課題】

- ・提供会員数が地区により偏りがあるため、会員を増やしたい地域を重点に周知活動を行っていく。また区と協力し新たな層（小・中学生保護者）への周知も視野に入れていく。
- ・個人情報取り扱いについては、定期的に注意喚起を行っていく。また職員間でも取り扱いには厳重注意し、確認作業を徹底して行う。
- ・拠点のネットワークを生かし、拠点ボランティアや子育てサポートシステム提供会員など多世代にわたる地域の担い手を通じて、広く地域全体で子育て支援に取り組めるよう目指したい。（人材育成・活動支援事業 再掲）

振り返りの視点

- ア 区民に対して、子育てサポートシステムについての周知活動を行っているか。
- イ 提供会員数拡大に向けた取組がなされているか。
- ウ 養育者に対して、必要時に利用相談しやすく感じられるような周知活動等の工夫をしているか。
- エ 会員が相互の合意のもとに気持ちよく安全に活動できるよう、会員の状況に応じた活動方法の提案や、丁寧なコーディネートができていますか。
- オ 会員の声の把握に努め、必要に応じて活動内容の調整や会員のフォロー、追加のコーディネート等を行っているか。
- カ 提供・両方会員が活動の意義を感じながら、安心・安全な活動を継続して行えるよう、研修会等の取組がなされているか。
- キ 会員の活動意欲を高めるため、会員間の交流をはかる取組がなされているか。
- ク 就労に関する以外の養育者のリフレッシュ等の理由での利用を促進する取組がなされているか。
- ケ 会員間で授受される個人情報を会員が適正に取り扱うことができるよう、注意喚起や研修等の取組がなされているか。
- コ 援助活動の調整等を通して把握した子育てに関するニーズを、必要な支援や新たな事業、事業の見直しにつなげているか。
- サ 専門的対応が必要と考えられる相談について、子ども家庭支援課との連携、連絡体制のもと、適切に対応しているか。

シ 子育てサポートシステム以外の子育てに関する相談に対して、情報提供等の支援ができていますか。

7 利用者支援事業

目指す拠点の姿	(参考) 1期目振り返りの課題	自己評価 (A~D)	
		法人	区
①拠点における利用者支援事業が、区民や関係機関に広く認知されている。	<ul style="list-style-type: none"> ・養育者に対して、更に効果的な周知方法を検討し実施していく。 ・相談対応にあたり、引き続き寄り添い丁寧に受け止め、次のステップを意識して支援の展開を図る。関係機関とのつながりを深めていく。 ・刻々と変化する行政、関係機関の情報をタイムリーに伝え、区と利用者支援が連携しながら適切な対応に努める。 	B	A
②相談者に寄り添い主体性を尊重しながら、個別相談に応じ、適切な支援を行っている。		A	A
③子育て家庭を支えるためのネットワークの一員として、包括的な視点を持って子ども・子育て支援に関する関係機関や地域の社会資源との協働の関係づくりを行っている。		B	B

評価の理由(法人)

(主なデータ)

- ・主な周知先 区民：拠点のホームページ（常時）、つうしん（毎月）、インスタグラム（随時）、4か月児健診、両親教室、赤ちゃん教室、
- 拠点での土曜両親教室
- こんにちは赤ちゃん訪問でパートナーチラシを全戸配布
- 関係機関：地区別子育て連絡会など子育て関係機関や地域の支援者の会議へ参加
- ・出張相談（戸塚の子育て応援ルームととことこ〈毎月〉、ゆうゆうひろば）
- ・地域訪問（親と子のつどいの広場、赤ちゃん教室、子育てサークル他）
- ・地区別子育て連絡会、支援者定例会
- ・相談件数（R3年）：東戸塚：282件（電話71件、出張33件）、サテライト：234件（電話37件、出張43件）

R1年度 横浜子育てパートナーの認知度

	H28年度	H30年度	R1年度
知っているが相談したことはない	69.0%	63.5%	72.0%
相談したことがある	10.0%	12.0%	8.0%
今後相談したい	3.0%	4.0%	4.0%
知らなかった	18.0%	14.0%	9.0%
未記入	-	5.0%	7.0%

①区民や関係機関に向けて利用者支援事業の周知活動を行った

- 1.拠点のホームページやつうしんで毎月周知し、区の仲介や拠点のネットワークを活用し、両親教室や土曜両親教室、4か月児健診、赤ちゃん教室、公園あそび、親と子のつどいの広場、主任児童委員主催の子育て支援サークル、他団体が開催しているプログラムに参加し周知活動を行い、活動の様子の把握に努めている。
- 2.地区別子育て連絡会、サポート連絡会（要対協）、分娩取扱医療機関連絡会、支援者定例会、赤ちゃん訪問員定例会、地域施設間連携事業研修に参加、生活支援センター、産院、母子生活支援施設、認定こども園を訪問し周知に努めた。
- 3.とつかの子育て応援ルームととことこへ毎月出張相談を行い、相談者と一緒にこども家庭支援課に付き添う事例もあった。
- 4.サテライト開所により横浜子育てパートナーがR1年度3月から2人体制になったため、拠点から遠方の地域への周知活動を更に充実させたい。

② 養育者に寄り添いながら相談に応じ、必要な支援に繋いだ

- 1.電話相談対応時も「顔が見える関係」を意識して、できる限りひろば利用に繋ぎ個々のニーズに適した情報を提示し相談者が選択できるよう配慮した。
- 2.横浜子育てサポートシステムの入会説明会から繋がった相談者に対して、区と情報共有をしながら各機関と連携し、迅速な対応ができた。また相談者がひろばを利用している際はひろばスタッフと連携し継続したサポートをすることができた。
- 3.転居などで他区の横浜子育てパートナーから引き継いだ養育者には、事前に必要な情報を集めたり、困りごとを丁寧に聴き取るなど継続した支援ができた。
- 4.学齢期（小学生～高校生）の養育者からの電話相談には、養育者の気持ちを受け止め、情報提供、必要な支援に繋いだ。

③拠点のネットワーク機能を活用し、多角的な視点から相談者に対応するよう努めた

1. 妊娠期から産後早い時期を中心とした支援を拡充するために、横浜市版子育て世代包括支援センターとして拠点の「当事者目線」での関わりに努めた。母子保健コーディネーターとの連携で、支援が必要な妊婦を拠点のイベント利用に繋げた。また、妊娠期の養育者の不安を知り、拠点での土曜両親教室など支援に繋がるよう工夫していきたい。（産後うつ予防等）
2. 地区別子育て連絡会、子育て支援者会場に出向き、利用者支援事業の機能や拠点利用者の状況を伝え、拠点に来所していない親子の情報を把握するなど、地域との関係強化に努めた。また、毎月、子育て支援者定例会に参加し、必要な情報提供を行ったり支援の必要な養育者の把握に努めた。
3. 支援が必要な養育者について、保健師から同行依頼を受け、定期的な拠点利用を促したり、児童相談所、区、拠点で連携し、養育者と子どもに必要な情報提供や見守り等多角的な支援を行った。
4. 1歳6か月児健診後に2歳のフォロー電話まで不安を持つ養育者が多いことを捉え、養育者向けに、療育センターの協力を得て「発達懇談会」を開催し、養育者に寄り添い不安軽減に努めた。またポンテの会※注1の定例会に参加し、情報共有し、拠点での相談や情報提供に役立てた。

※注1 ポンテの会：お子さんの発達が気になる、障害があるけど、どこに相談したらいいかわからない・家庭を対象に、戸塚区内で親子支援をしている団体の集まり

評価の理由(区)

- ① 横浜子育てパートナーを区民、関係機関に対して周知し、利用促進がはかれるよう広報媒体の活用、会議への出席など調整した。4か月児健診では子育てパートナーが周知しており、保健師が問診で必要な方に対し、子育てパートナーにつないでいる。
- ① 横浜子育てパートナーの認知度は広がったが、利用の現状には地区の偏りがある。拠点に物理的に来所が難しい方向けに、出張相談などでの利用ができるようにしていくことが必要。
- ② 相談対応について、一緒に考え、助言する機会を設けた。より専門的な支援が必要な方は区や関係機関にスムーズにつなげることができている。
- ③ 拠点のネットワーク機能と連動し、関係機関との関係づくり・関係強化を行っている。今後、相談の振り返りや検討の中から、課題を抽出し、拠点事業の充実や地域資源の開発などを図っていく。

拠点事業としての成果と課題

- (成果)
- ・ 養育者自身のことや育児への不安を傾聴し、相談者が抱えている問題を整理できるよう努めた。また区や関係機関と連携し、必要な情報提供や支援に繋ぐなど迅速な対応ができた。その後もひろば利用時はひろばスタッフと連携し継続したサポートをすることができている。
 - ・ 関係機関の会議等に積極的に参加し、顔の見える関係づくりに努めたことで、横浜子育てパートナーとしての認知度が上がり連携に繋がった。
 - ・ 土曜両親教室では、産後の不安軽減に役立つよう居住地域の子育てに関する情報提供に努め、横浜子育てパートナー相談の周知を行ったことで、産前産後の電話相談に繋がった。オンラインでも産前産後カフェを開催したり、プレママ・プレパパが来館した際は沐浴体験のフォローやひろばに来ている親子につなげるなど、産前産後の不安軽減の一助になるよう努めた。
 - ・ 子の発達に不安な養育者の集まりの開催や、「ダウン症児の会」を立ち上げたり、多胎児に特化した両親教室を開催し、多様な養育者の不安軽減につながった。
- (課題)
- ・ 妊婦の実情やニーズを区と拠点が共有し、横浜市版子育て世代包括支援センターとして切れ目ない支援を更に充実させていく。特に妊娠～産後の時期に丁寧な寄り添い、養育者自身が安心感を持って子育てに取り組めるように支援していく。
 - ・ 今後、相談の振り返りや検討、地域で得た親子の情報の中から、ひとり親支援や障がいなど多様な養育者に向けて区と協議しながら課題を抽出し、不足した資源をネットワークを活用し充実させていく。
 - ・ R2年3月より横浜子育てパートナーが2人体制になったことで、東戸塚エリアと戸塚エリアに分担した。より丁寧なニーズ調査を行い支援に繋がる新たなネットワーク(出張相談含め)の構築を行っていき、更に関係機関への周知をすすめていく。

振り返りの視点

- ア 利用者支援事業を幅広く区民や関係機関に周知しているか。
- イ 養育者に対して、気軽に相談しやすい仕組みづくりや工夫をしているか。
- ウ 最新の情報を収集し、活用できるよう工夫しているか。
- エ 相談に対しては、傾聴に努め、ニーズを把握して対応しているか。
- オ 拠点内連携、関係機関への紹介・仲介・支援依頼等について、相談者が円滑に利用できるような対応をしているか。
また、専門的な対応を要する相談については、内容に応じて速やかに関係機関に紹介・仲介する等、適切な対応を行っているか。
- カ 拠点内連携、関係機関への紹介・仲介後も必要に応じて役割分担を確認しながら継続的な関わりをもっているか。
- キ 相談の対応状況や支援の適切さ、拠点内外での連携状況等について、多角的な視点から振り返りや検討を行っているか。

- ク 拠点のネットワークを活用し、関係機関や地域の社会資源との関係づくり・関係強化を行っているか。
- ケ 利用者支援事業の周知や個別相談等の取組を通じて、支援につながる新たなネットワークの構築を行っているか。
- コ 把握した課題を関係機関等と共有し、拠点事業の充実や、必要な支援の調整や見直し、不足する資源の調整や提案につなげているか。

協働事業プロセス相互検証シート

1 事業計画段階

【共有できたことや認識に違いがあったこと】

・各事業については、区・拠点の担当で打ち合わせを重ね、事業計画～振り返りの段階まで目的や方向性を共有できている。
・定例会(月1回)を活用し、新規の企画については、説明資料を作成し目的や方向性を全体で共有、既存の企画についても目的を確認する機会を設け、共有している。都度進捗状況を確認し、意見交換ができています。

【今後改善が必要と思われること】

・基本目標を繰り返し確認し、当初の目標からゴールに向けて適切な事業計画が立案できるようにする。
・関わる職員がみな、課題や目的を共有して事業を実施できるような体制を作っていく必要がある。
・計画段階から評価計画も含めて立案する。

2 事業実施段階

【共有できたことや認識に違いがあったこと】

1に同じ

【今後改善が必要と思われること】

・事業を進めていくにあたり、拠点機能の充実に合わせて、区の事業への関わり方・役割をその都度、検討・整理していく必要がある。
・個人情報の取扱いに関して、区・拠点の共通認識を深めて対応していけるようにする。

3 事業の振り返り段階

【共有できたことや認識に違いがあったこと】

1に同じ

・事業の計画から振り返りまで実施し、新たな事業への展開につながっている。

【今後改善が必要と思われること】

・区、拠点それぞれの役割を明確化し、役割に応じた視点でその都度状況の確認をする機会を設け、適宜、計画の修正を行う必要がある。
・区の事業目標を明確にした上で、区・拠点それぞれがとらえる親子や子育て世帯の現状や課題を共有し、事業を進めていけるようにする。

横浜市戸塚区地域子育て支援拠点の運営者の選定に関する要綱

制定 平成20年5月21日 戸サ第839号（戸塚区長決裁）
最近改正 令和4年6月27日 戸こ第805号（戸塚区長決裁）

（趣旨）

第1条 この要綱は、横浜市戸塚区地域子育て支援拠点事業実施要綱（以下「実施要綱」という。）第2条第2項の規定に基づき、横浜市戸塚区地域子育て支援拠点事業を運営する者（以下「運営者」という。）について、公平かつ適正に選定するために必要な手続を定めることを目的として制定する。

2 横浜市戸塚区地域子育て支援拠点事業の受託候補者をプロポーザル方式により選定する場合の手続き等については、横浜市委託に関するプロポーザル実施取扱要綱に定めがあるもののほか、この要綱に定めるものとする。

（定義）

第2条 この要綱における用語の意義は、実施要綱の例による。

（実施の公表）

第3条 実施の公表にあたっては、当該要綱、募集要項、実施要綱等により、次の各号に掲げる事項について明示するものとする。

- (1) 当該事業の概要・仕様等
- (2) プロポーザルの手続き
- (3) プロポーザルの作成書式及び記載上の留意事項
- (4) 選定委員会及び評価に関する事項
- (5) その他必要と認める事項

（運営者）

第4条 運営者は、法人格を有する団体とする。

2 前項の団体は、次の各号に掲げる法人とする。

- (1) 市内の保育所等の児童福祉施設を経営する社会福祉法人等
- (2) 市内の医療施設を経営する医療法人等
- (3) 市内における子育て支援の活動実績を有する特定非営利活動（NPO）法人
- (4) 市内の幼稚園を経営する学校法人等

（運営法人の選定）

第5条 区長は、原則として運営者とする法人（以下「運営法人」という。）を公募し、応募した者の中から、次条以下に定める事項に基づき、運営法人の選定を行うものとする。

2 前項の規定にかかわらず、区長は、必要と認めるときは運営法人の選定を公募によらず行うことができる。ただし、この場合においても、次条以下に定める事項に基づき、運営法人の選定を行わなければならない。

（運営法人の応募資格）

第6条 運営法人の応募資格については、次の各号全てに該当する法人とする。

- (1) 横浜市的一般競争入札参加有資格者名簿に登載されていること又は委託契約を締結するまでの間に登載されていることが見込まれること。
- (2) 宗教活動又は政治活動を主たる目的としていないこと。

(提案書の内容)

第7条 提案書は、次の各号に掲げる事項について作成するものとし、様式などは、別に定める。

- (1) 業務実績
- (2) 当該業務の実施方針
- (3) 当該業務に関する具体的な提案
- (4) その他当該業務に必要な事項

(運営法人の選定基準)

第8条 運営法人の選定については、次に掲げる事項等を総合的に判断して行うものとする。

- (1) 乳幼児の養育者のニーズを適切に把握、理解し、これらの者への交流の場の提供、子育てに関する相談並びに子育てに関する情報の収集及び提供等の支援を通じて、養育者の育児不安等の解消、育児力の向上を効果的に図ることができる法人であること。
- (2) 地域において子育てに関する支援活動を行う者（以下「活動者」という。）との連携を図り、これらの活動を活性化させるとともに、地域のニーズを踏まえた活動者の育成、支援を行うことで、子育てを地域全体で支援する地域力の創出が図れる法人であること。
- (3) 地域子育て支援拠点事業の趣旨について十分理解し、事業運営について適切な事業提案を行っているとともに、継続して安定した事業運営が見込まれる法人であること。
- (4) 事業運営にあたって、区福祉保健センター等の関係機関との連携、協力が図れる法人であること。

(評価)

第9条 プロポーザルを特定するための評価事項は、次に掲げる事項とする。

- (1) 業務実績等
 - (2) 業務実施方針の妥当性・実現性等
 - (3) 提案内容の妥当性・実現性等
 - (4) その他、当該業務に対する意欲等
- 2 プロポーザルの評価にあたって、提案者にヒアリングを行うものとする。
- 3 提案書の内容及びヒアリング結果を基に、当該業務に最も適した者を特定する。
- 4 特定、非特定に関わらず、各々の提案者の評価結果については、その提案者に通知する。

(運営法人選定委員会)

第10条 区長は、運営法人を選定するにあたっては、横浜市子育て支援事業運営事業者選定委員会運営要綱（以下、「運営事業者選定委員会運営要綱」という。）第7条第1項第15号に規定する横浜市戸塚区地域子育て支援拠点運営法人選定委員会（以下「選定委員会」という。）の意見等を聴く。

- 2 選定委員会の組織及び運営に関し必要な事項は、運営事業者選定委員会運営要綱第7条第4項の規定に基づき、横浜市戸塚区地域子育て支援拠点運営法人選定委員会要

綱に定める。

- 3 選定委員会におけるプロポーザルの評価結果については、戸塚区入札参加資格審査・指名業者選定委員会（以下、「業者選定委員会」という。）に報告するものとする。

（評価結果の審査）

第 11 条 業者選定委員会は、評価結果の報告があったときは、業者選定委員会において、次の事項について審査する。

- (1) 選定委員の採点が適正に行われたこと。
- (2) 選定委員会の審議及び採点の集計等が適正に行われたこと。
- (3) 評価結果に関し、必須事項以外に公表する事項の選定
- (4) 特定、非特定結果通知書に記載する理由
- (5) その他必要な事項

（運営法人選定の報告）

第 12 条 区長は、運営法人を選定したときは、こども青少年局長へ報告するものとする。

（選定の効力）

第 13 条 運営法人選定の効力は、当該選定された運営法人が事業を開始した年度から起算して5か年度とする。

- 2 前項の規定にかかわらず、運営法人が次の各号のいずれかに該当し、下記の事項により運営法人として適当でないと認めるときは、区長は運営法人の選定を取り消し又は運営の停止を命じることができる。

- (1) 事業運営にあたって、区との連携及び協力の姿勢がないとき
- (2) 事業の委託契約について重大な違反があり、そのことにより委託契約を継続することが困難なとき
- (3) その他運営法人として適当でないと区長が認めるとき

（その他）

第 14 条 その他この要綱の運用において必要な事項は区長が定めるものとする。

附 則

（施行期日）

この要綱は、平成 20 年 5 月 21 日から施行する。

附 則

（施行期日）

この要綱は、平成 24 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

（施行期日）

この要綱は、平成 27 年 8 月 7 日から施行し、平成 27 年 4 月 1 日から適用する。

附 則

（施行期日）

この要綱は、平成 28 年 8 月 31 日から施行する。

附 則
(施行期日)

この要綱は、令和4年6月27日から施行する。

委員としての注意事項

資料8

1 守秘義務

選定のうゑで知り得た団体や個人に関する情報は外部に口外されないようお願いいたします。

2 応募法人との接触

選定の公平性を確保する観点から、応募法人との接触は極力避けていただきますようお願いいたします。

3 委員の氏名公表

選定委員会終了後、戸塚区ホームページで公表します。

4 出席

選定委員会の会議は、委員の5分の4以上の出席がなければ開くことができない。

※【資料1】横浜市戸塚区地域子育て支援拠点運営法人選定委員会要綱第5条2項 抜粋

第2回選定委員会において、委員会成立のため、評価点数反映のため、出来る限り御出席いただきますようお願いいたします。

港南区地域子育て支援拠点「はっち」見学会について

拠点についてより理解を深めるため、港南区地域子育て支援拠点「はっち」の見学会を行います。拠点運営の様子を御覧になりたい方はぜひ御参加ください。

詳細は次のとおりです。

1 日程及びスケジュール

令和4年11月24日（木）

時間	内容
10:20	横浜市営地下鉄ブルーライン 港南中央駅改札集合 (参考) 10:04 戸塚駅発→10:13 港南中央駅着
10:30	「はっち」到着、見学開始
11:00	拠点スタッフによる「はっち」の概要案内(特徴・利用者数・課題等)
11:30	質疑応答
11:45	退所、解散

2 場所

港南区地域子育て支援拠点「はっち」

住所：横浜市港南区日野2丁目4番6号

アクセス：横浜市営地下鉄ブルーライン 港南中央駅から徒歩5分（約400m）



3 参加方法

参加を希望される方のみ、本日中に下記連絡先にお電話かメールで御連絡いただきますようお願いいたします。

電話 045-866-8466

メール to-sentei@city.yokohama.jp

担当 三浦、山崎